

芦屋市 ごみ減量に関する市民アンケート調査結果

1. 調査概要

(1) 目的

芦屋市一般廃棄物処理基本計画（ごみ処理基本計画）が中間目標年度を迎えることに加え、プラスチックの分別収集及び施設整備計画の方向性が概ね決まったこと等、諸条件の大きな変動に伴い、この間の社会情勢の変化等を踏まえた計画の見直しを行うため、今後の施策検討のための基礎資料とするために実施しました。

(2) 調査対象

2,500人

【選定方法】無作為抽出

【抽出条件】市内在住の18歳以上の市民

(3) 調査方法

回答は無記名とし、令和8年2月16日～3月16日を調査期間として郵送による配布、回収（郵送、web）を実施しました。調査期間を超えて返送された調査票についても、集計対象としています。

(4) 調査項目

- 回答者の属性について
 - ・性別、年齢、家族構成、居住地町名、住宅種別、ごみの出し方
- ごみについての意識や考え、取り組みについて
 - ・ごみ問題への関心、ごみを減らす行動、関心がある取組、指定ごみ袋導入による意識の変化
 - ・ごみの分別の実施状況、ごみ出しのルール・マナー
- 食品ロス・廃食用油について
 - ・食品ロスの言葉の認知、食品ロスの発生状況、食品ロスの内容、実践している食品ロス対策
 - ・廃食用油の処分方法、廃食用油回収ボックスの利用状況・理由
- ごみの分別について
 - ・紙資源の燃やすごみとしての排出状況・理由
- リチウムイオン電池について
 - ・リチウムイオン電池への理解、リチウムイオン電池の排出方法
- 再生資源集団回収制度について
 - ・集団回収の利用状況・理由
- ごみ減量や資源化に関する情報について
 - ・「さんあ〜る」の認知・理由、ごみの情報を入手する方法、知りたい情報
- プラスチックのリサイクルについて
 - ・プラスチックのリサイクルへの関心、プラスチックのリサイクルで良いと感じること
 - ・どの程度分別できるか、リサイクル際の課題、分別意識向上、知りたい情報
- 3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進する取り組みについて
 - ・3Rの取り組みへの関心・理由 など

(5) 回収の結果

抽出数： 2,500人

有効回収票数： 1,464票（ウェブ回答606票、紙回答858票）

有効回答率： 58.6%

(6) 留意点

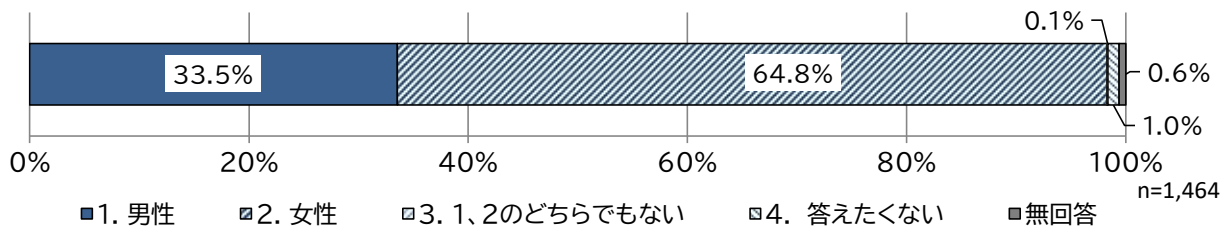
- ・集計では、四捨五入の都合上、数値の合計が100%にならない場合があります。
- ・グラフ中のNとは、回答者数を表し、無回答を含みますが、無効・除外した回答を含みません。

2. 調査結果

(1) 回答者の属性

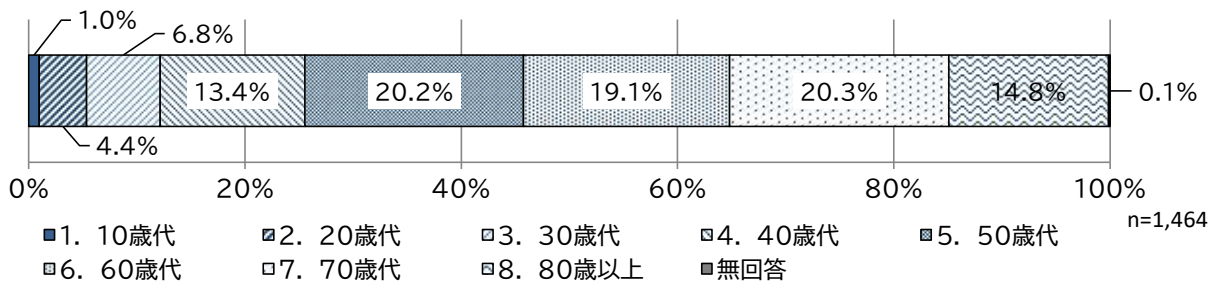
① 性別

・「女性」が64.8%、「男性」が33.5%でした。

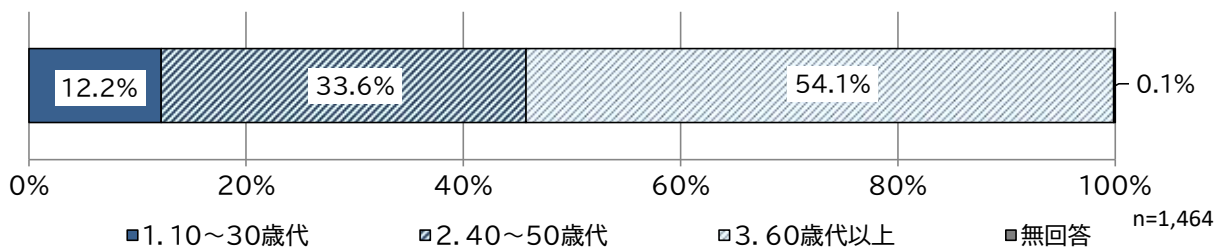


② 年齢

・「50歳代」「60歳代」「70歳代」が約2割と多く、次に「80歳代」が14.8%、「40歳代」が13.4%でした。

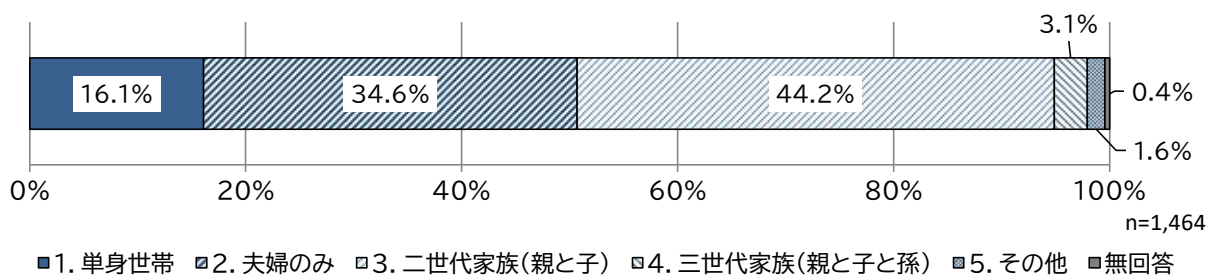


・年齢階層別にみると、「60歳代以上」が54.1%と最も多く、次に「40～50歳代」が33.6%、「10～30歳代」が12.2%でした。



③ 家族構成

・「二世世代家族（親と子）」が44.2%と最も多く、次に「夫婦のみ」が34.6%、「単身世帯」が16.1%でした。

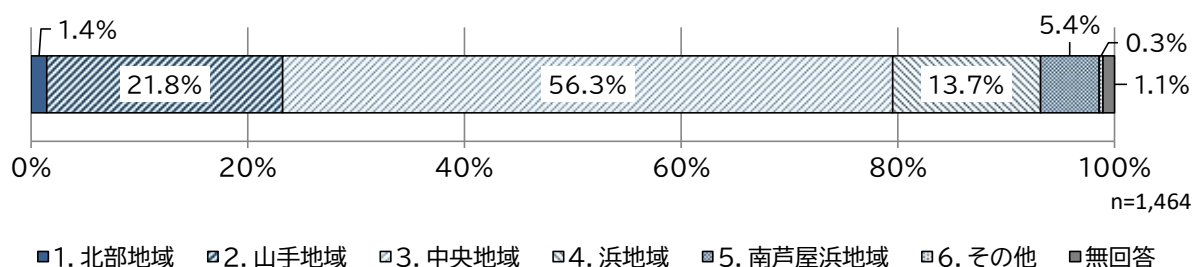


<その他の回答>

・兄弟・姉妹 ・親子以外の二世帯 など

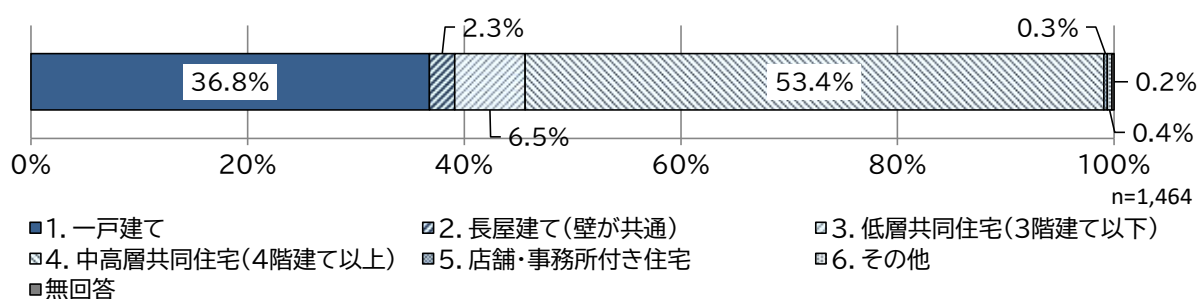
④ 居住地域

・「中央地域」が56.3%と最も多く、次に「山手地域」が21.8%、「浜地域」が13.7%でした。



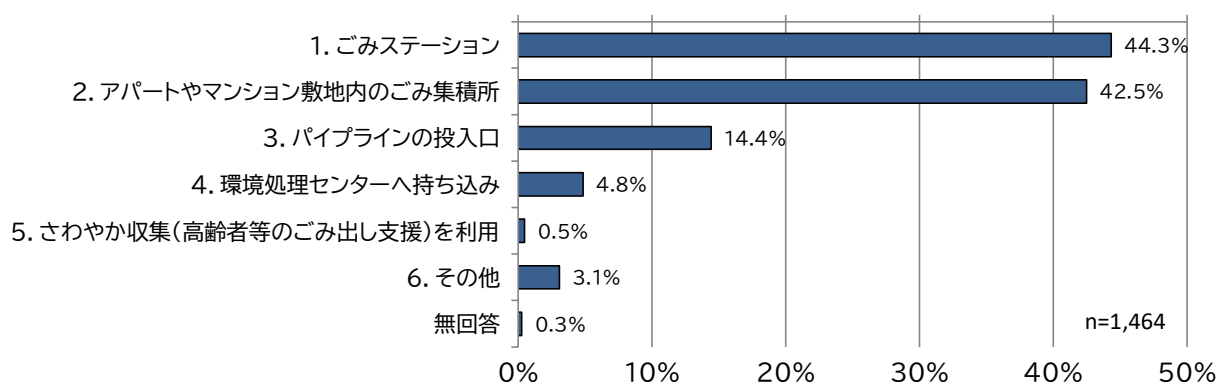
⑤ 住まいの形態

・「中高層共同住宅（4階建て以上）」が53.4%と最も多く、次に「一戸建て」が36.8%、「低層共同住宅（3階建て以下）」が6.5%でした。



⑥ ごみ出しの形態

・「ごみステーション」が44.3%で最も多く、次に「アパートやマンション敷地内のごみ集積所」が42.5%、「パイプラインの投入口」が14.4%でした。



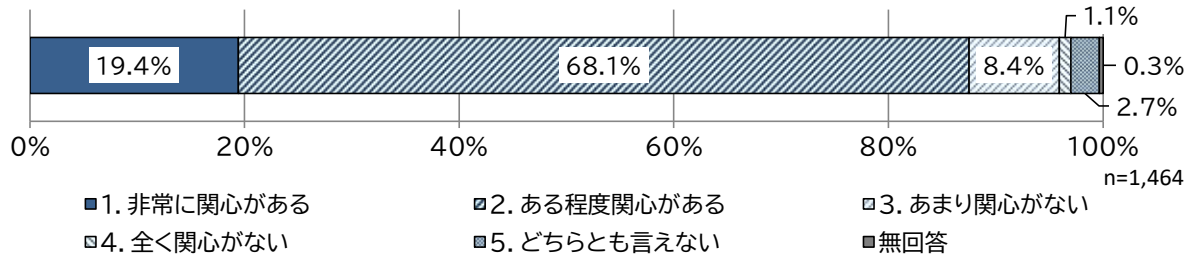
<その他の主な回答>

- ・マンションのごみ収集の人が玄関前に置いているのを集積所へ運んでくれる
- ・自宅前に有料で回収してもらっている
- ・ホームヘルパーに収集してもらっている など

(2) ごみについての意識や考え、取り組みについて

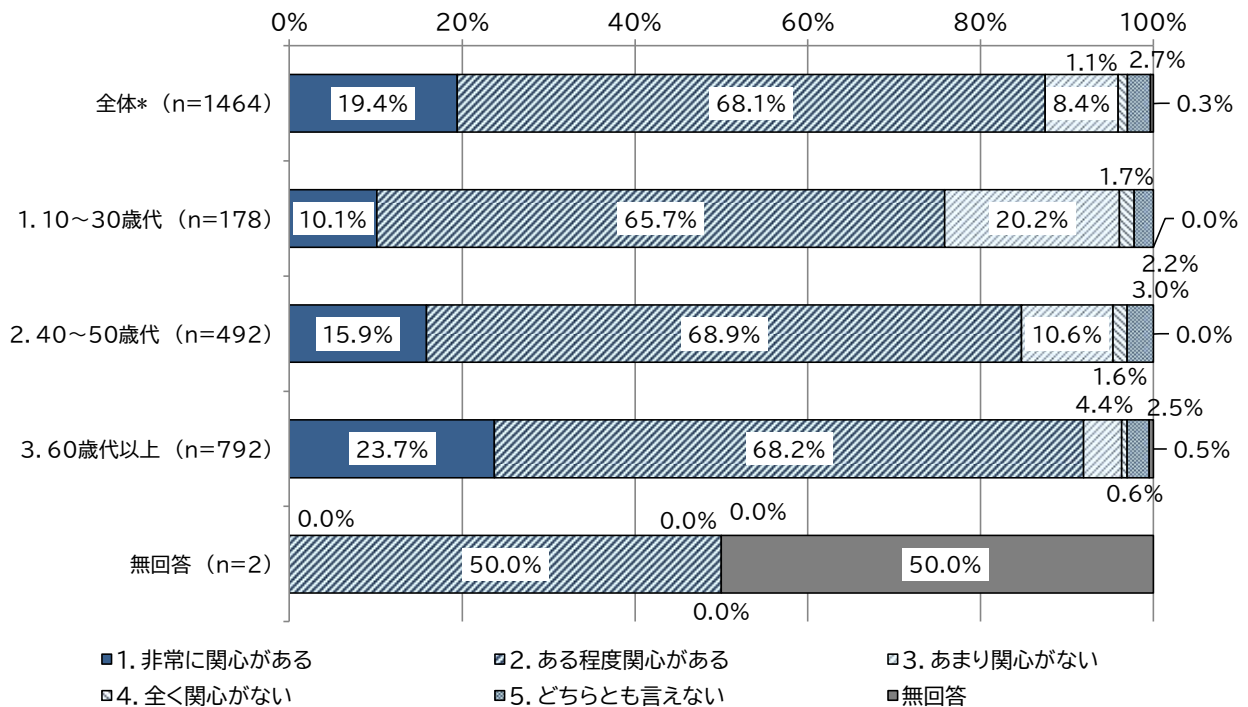
① ごみ問題に対する関心

・「ある程度関心がある」が 68.1%と最も多く、次に「非常に関心がある」が 19.4%、「あまり関心がない」が 8.4%でした。



【年代別】

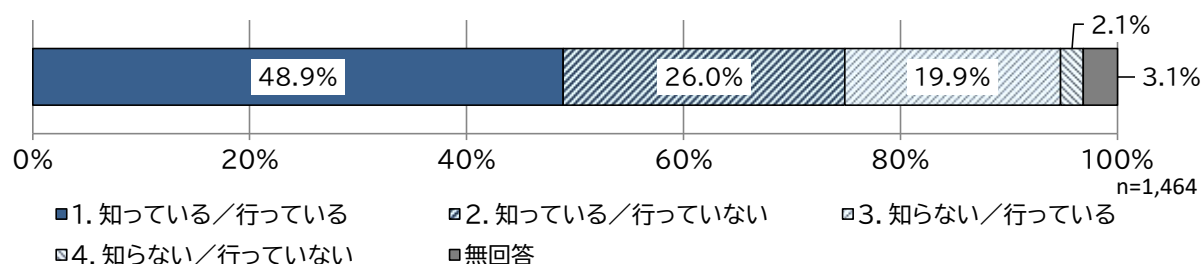
・年代別では、いずれの年代においても「非常に関心がある」「ある程度関心がある」を合わせた「関心がある」が7割から9割と関心がある方の割合が高いものの、「非常に関心がある」は若い方ほど割合が低くなっています。また 10～30 歳代では「あまり関心がない」が 20.2%と他の世代よりも高くなっています。



② ごみを減らす行動

●リデュース（ごみをなるべく出さない）

・「知っている／行っている」が48.9%と最も多く、次に「知っている／行っていない」が26.0%、「知らない／行っている」が19.9%でした。

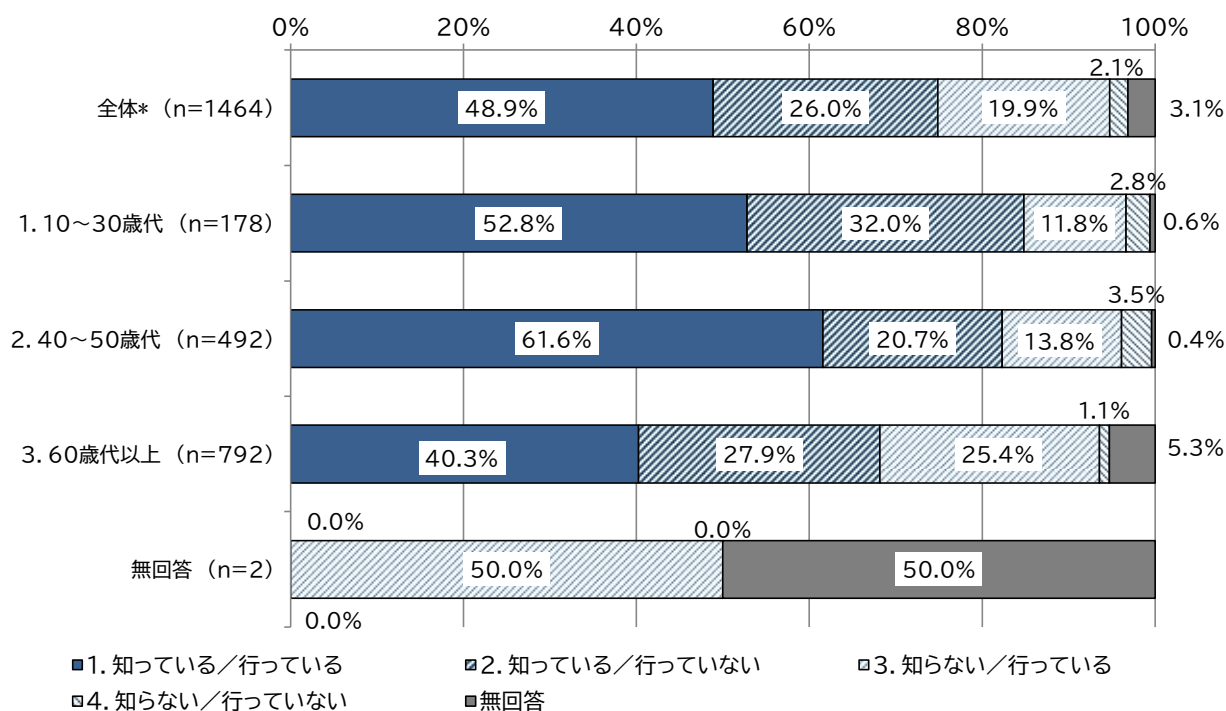


<その他の主な回答>

- ・ 不用品の整理を始めて一年程、少しずつ出させて頂いています。
- ・ ごみが有料なので多いので大きい物を買って控えてしまう。 など

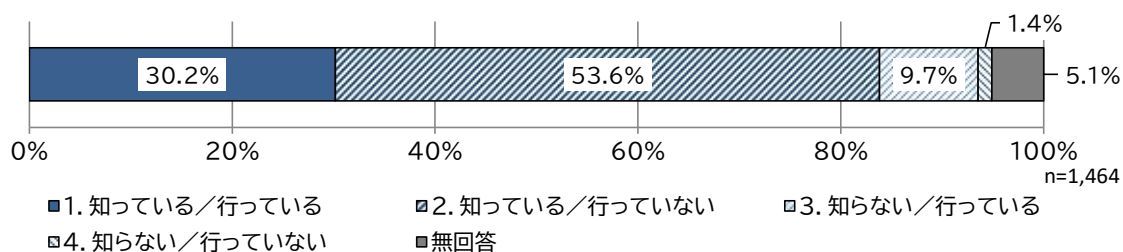
【年代別】

・ 年代別では、いずれの年代においても「知っている／行っている」が最も多く 40~60%前後、次に「知っている／行っていない」が 20~30%程度となっています。



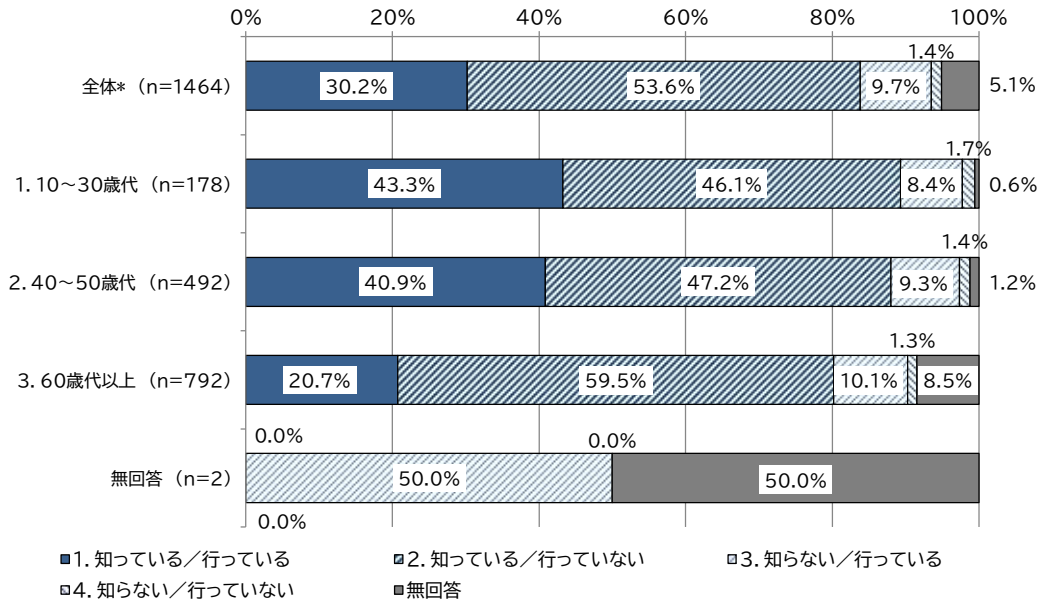
●リユース（繰り返し使う）

・「知っている／行っていない」が53.6%と最も多く、次に「知っている／行っている」が30.2%、「知らない／行っている」が9.7%でした。



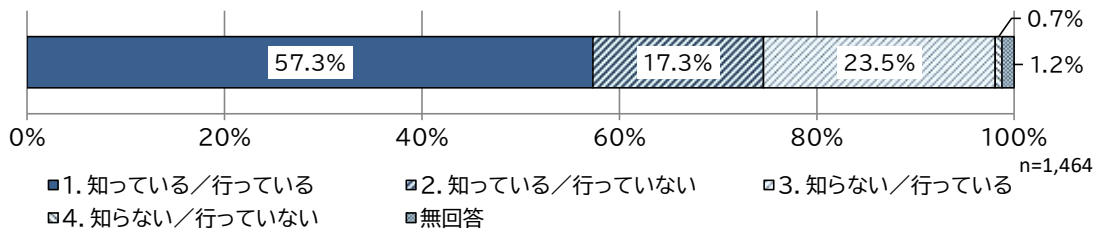
【年代別】

・「知っている／行っていない」は、年代別では10～30歳代と40～50歳代が約5割で、60歳代以上では約6割と他の世代に比べて割合が高くなっています。



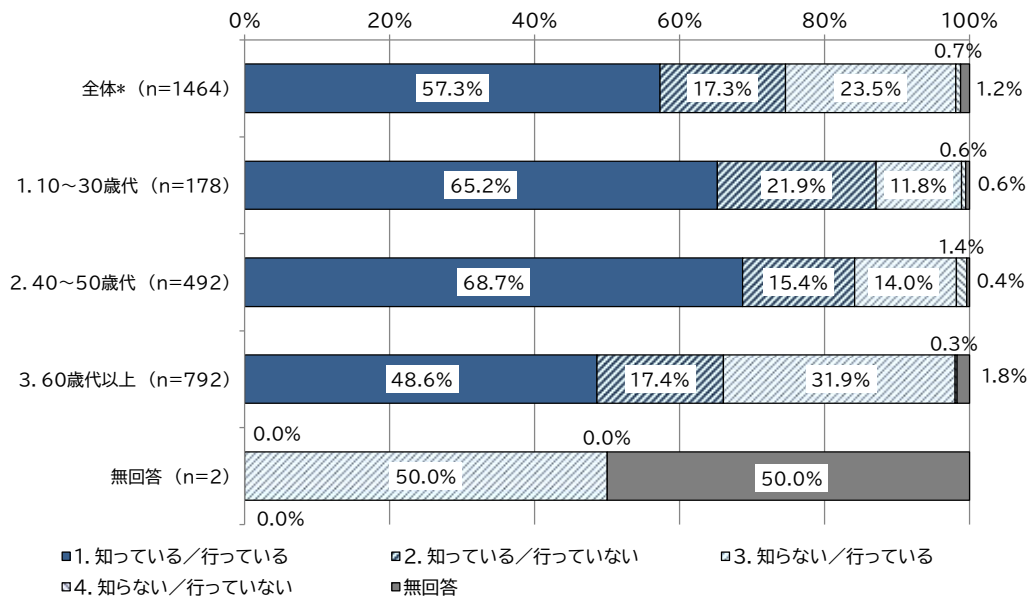
●リサイクル（資源として再利用する）

・「知っている／行っている」が57.3%と最も多く、次に「知らない／行っている」が23.5%、「知っている／行っていない」17.3%でした。



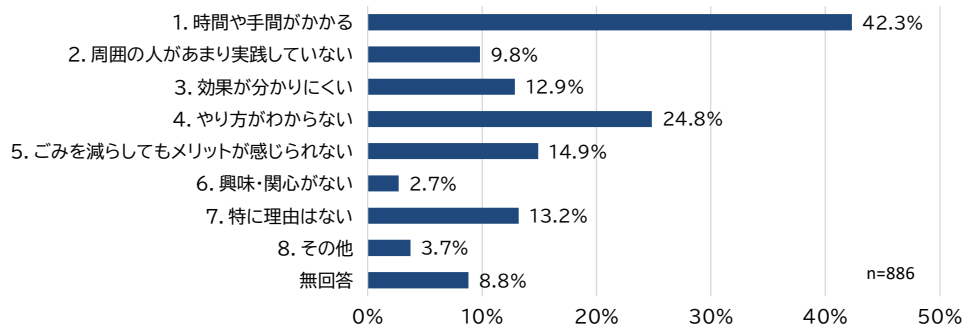
【年代別】

・年代別では、いずれの年代においても「知っている／行っている」が最も多く50～70%前後でした。10歳代～50歳代では「知っている／行っていない」が20%程度、60歳代以上では「知らない／行っている」が31.9%でした。



●「ごみを減らす行動」で「知っているが、行っていない」理由

・「時間や手間がかかる」が42.3%と最も多く、次に「やり方がわからない」が24.8%でした。



MA=1,180

<その他の回答>

●リデュース

- ・生ごみの水切り・フードドライブの意味そのものがわからない。

●リユース

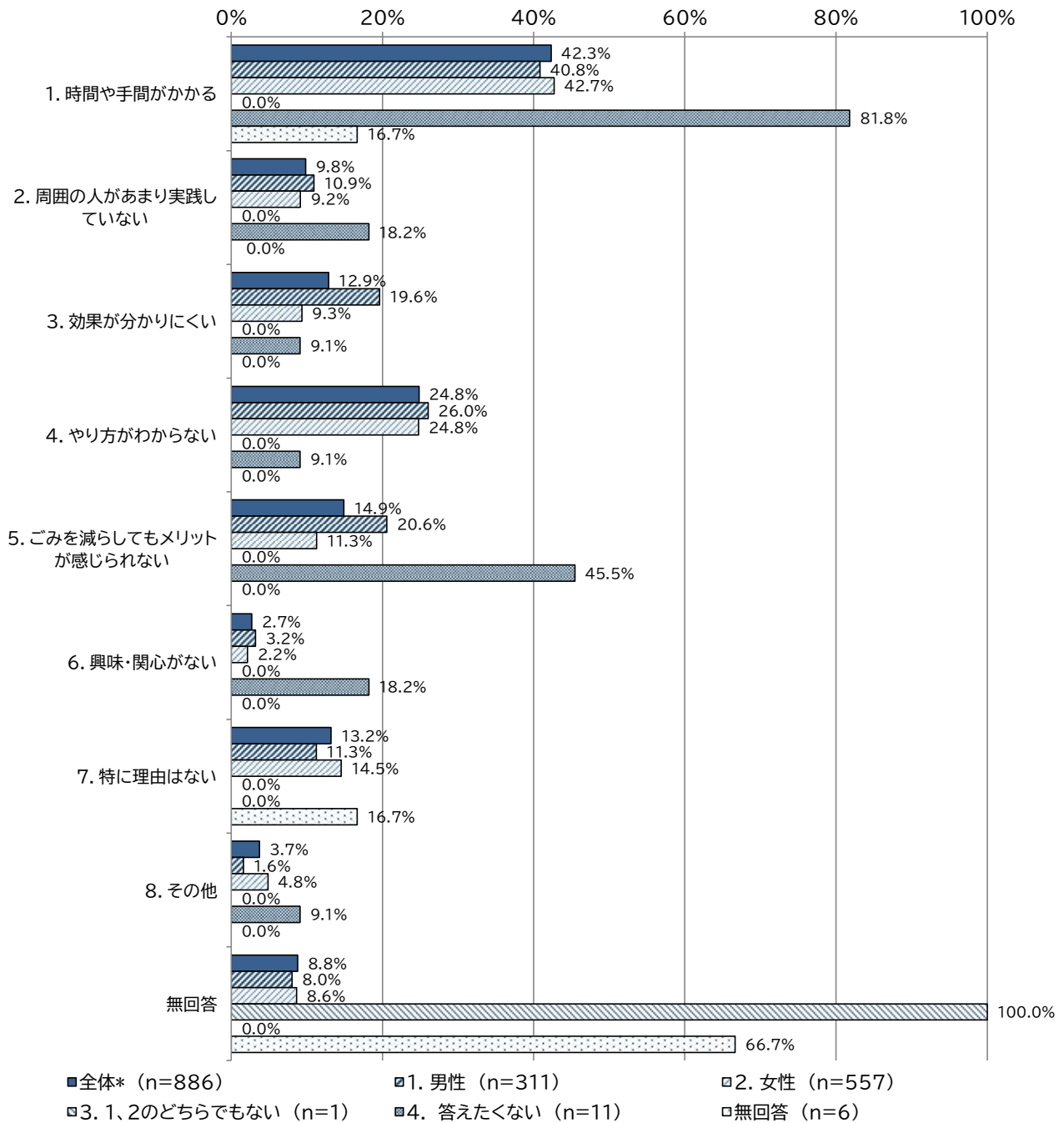
- ・人に使って欲しくない
- ・メルカリなどアプリが難しい、人と会うのが面倒。人とのやり取りでは、トラブルが心配。
- ・子供服などを知人に譲ろうとすると、かえって相手が「押しつけられている」と感じるのではないかという不安。

●リサイクル

- ・持って行く場所が判らない。 など

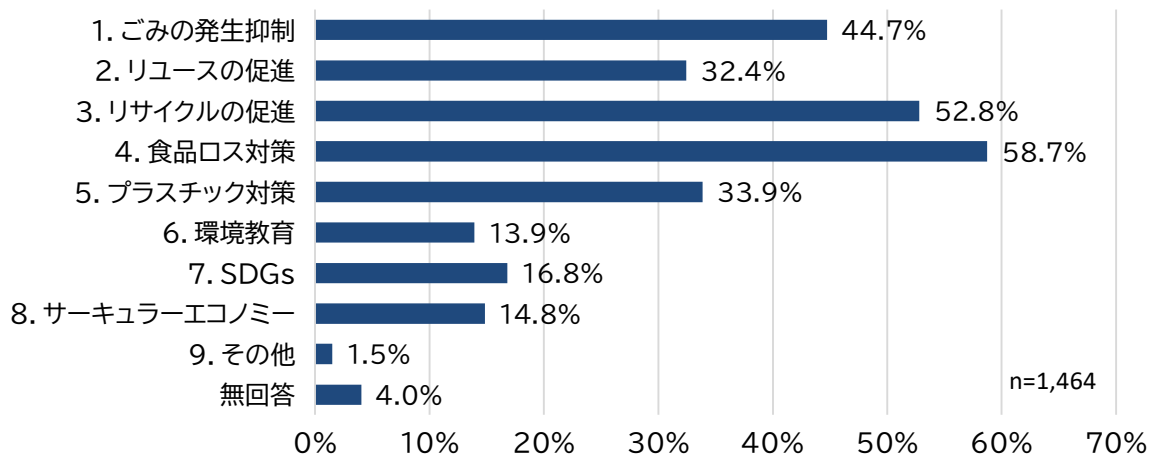
【性別】

・男性では「時間や手間がかかる」が最も多く 40.8%、次に「やり方がわからない」が 26.0%でした。また、「効果がわかりにくい」と「ごみを減らしてもメリットが感じられない」が 20%前後で、女性に比べて 2 倍程度になっています。



③ 興味や関心があるごみの減量化やリサイクルなどの取り組み

・「食品ロス対策」が 58.7%と最も多く、次に「リサイクルの促進」が 52.8%、「ごみの発生抑制」が 44.7%でした。



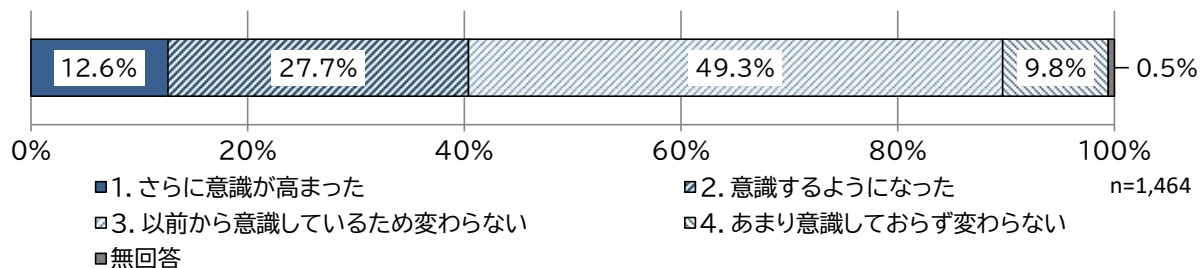
MA=4,007

<その他の主な回答>

- ・ 広域化
- ・ 生ごみのコンポスト化
- ・ 大量生産・大量消費がそもそもの問題、必要で質の高いものを買いたいがなかなかない。
- ・ ごみ発生を抑制する商品の開発
- ・ 食用油のリサイクル
- ・ リサイクル先進地の取り組み など

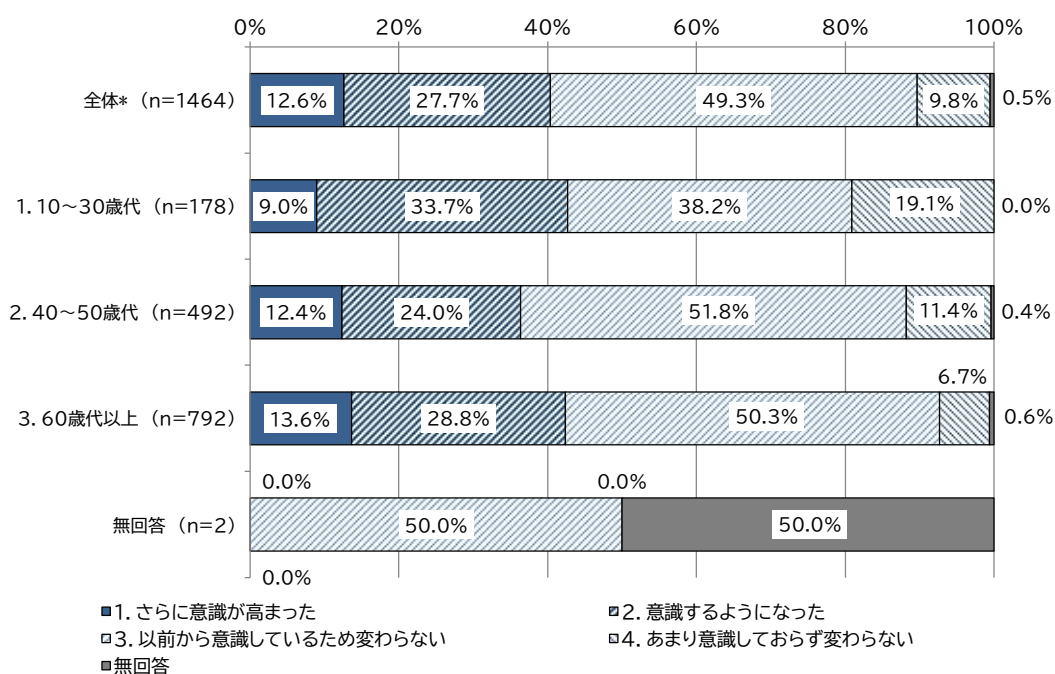
④ 指定ごみ袋を導入したことにより、分別の意識が高まったと感じるか

・「以前から意識しているため変わらない」が49.3%と最も多く、「意識するようになった」が27.7%、「さらに意識が高まった」の12.6%と合わせると「意識するようになった」は40.3%でした。



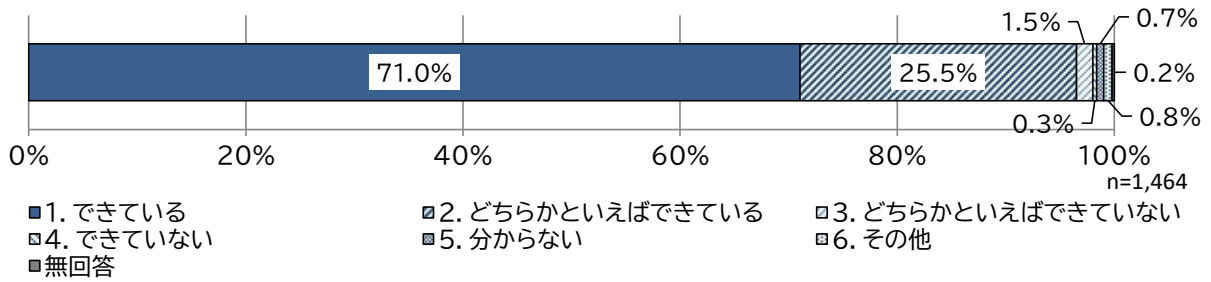
【年代別】

・年代別では、いずれの年代においても「以前から意識しているため変わらない」が最も多く 40～50%前後でした。



⑤ ごみの分別の実施状況について

・「できている」が71.0%と最も多く、次に「どちらかといえばできている」が25.5%でした。

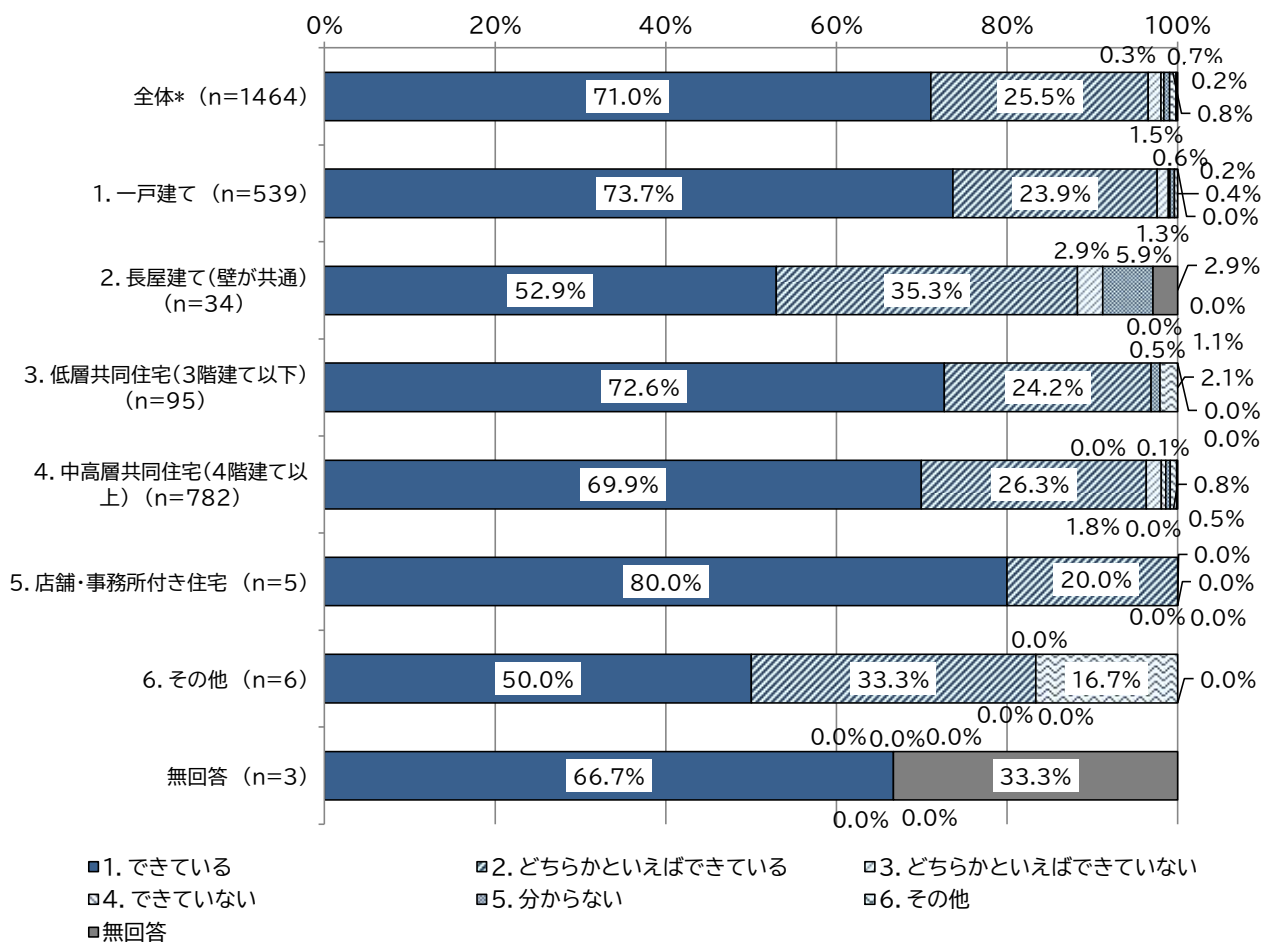


<その他の主な回答>

- ・マンション独自ルールがある
- ・細かな分別はマンション管理会社が行っている
- ・事業ごみの収集ルール
- ・ホームヘルパーにお任せしている など

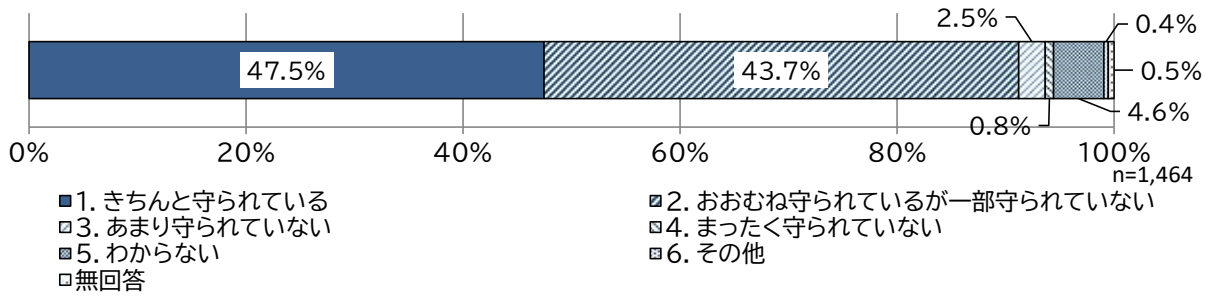
【住まいの形態別】

・住まいの形態別では、いずれの住まいの形態においても「できている」が最も多く 50～80%となっています。



⑥ ごみ出しのルールやマナーについて

・「きちんと守られている」が47.5%と最も多く、次に「おおむね守られているが一部守られていない」が43.7%でした。

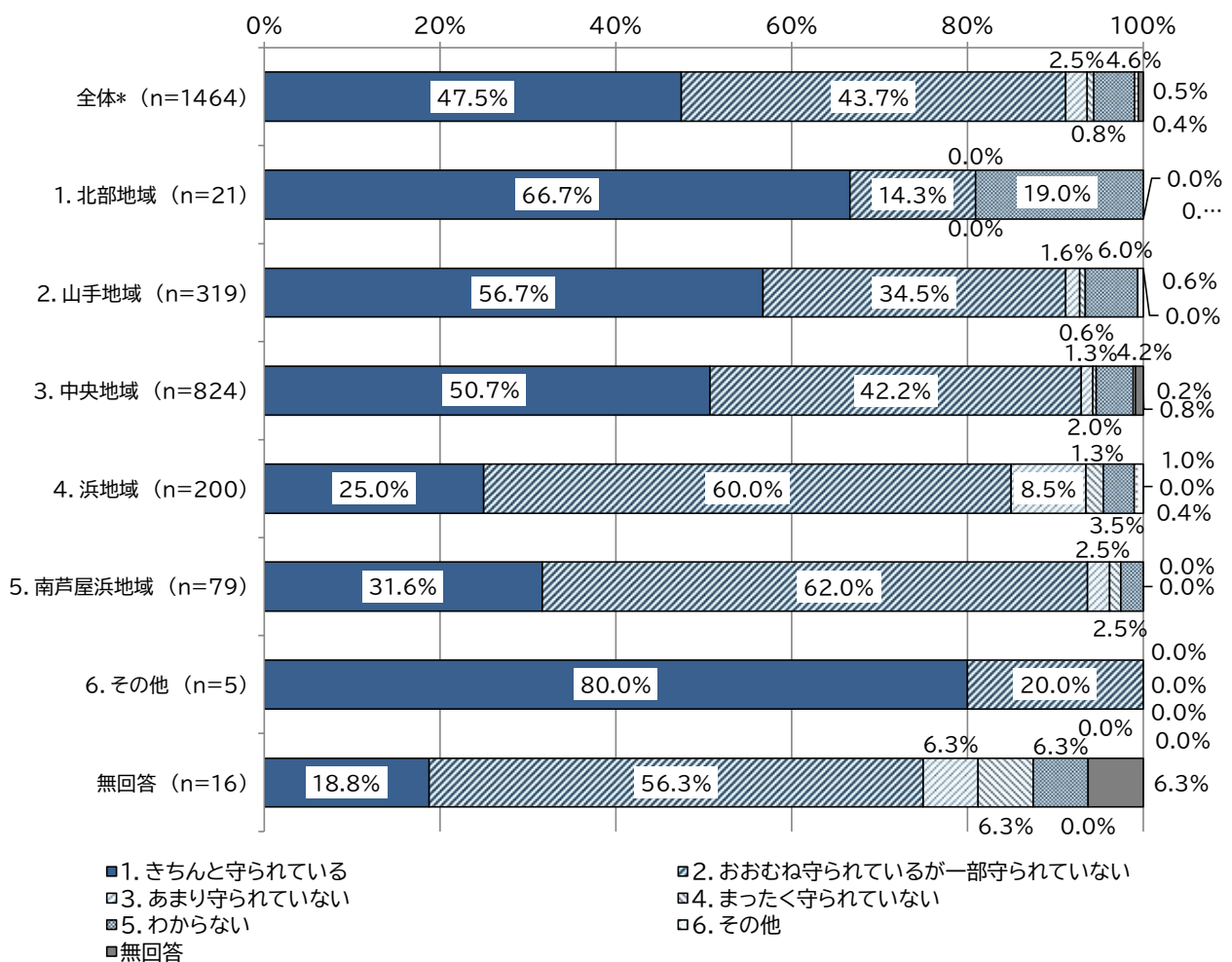


<その他の主な回答>

- ・マンションのごみ集積所に、住居人以外が粗大ごみを不法投棄することがある
- ・ご近所でルールが守られていないごみステーションを見かける など

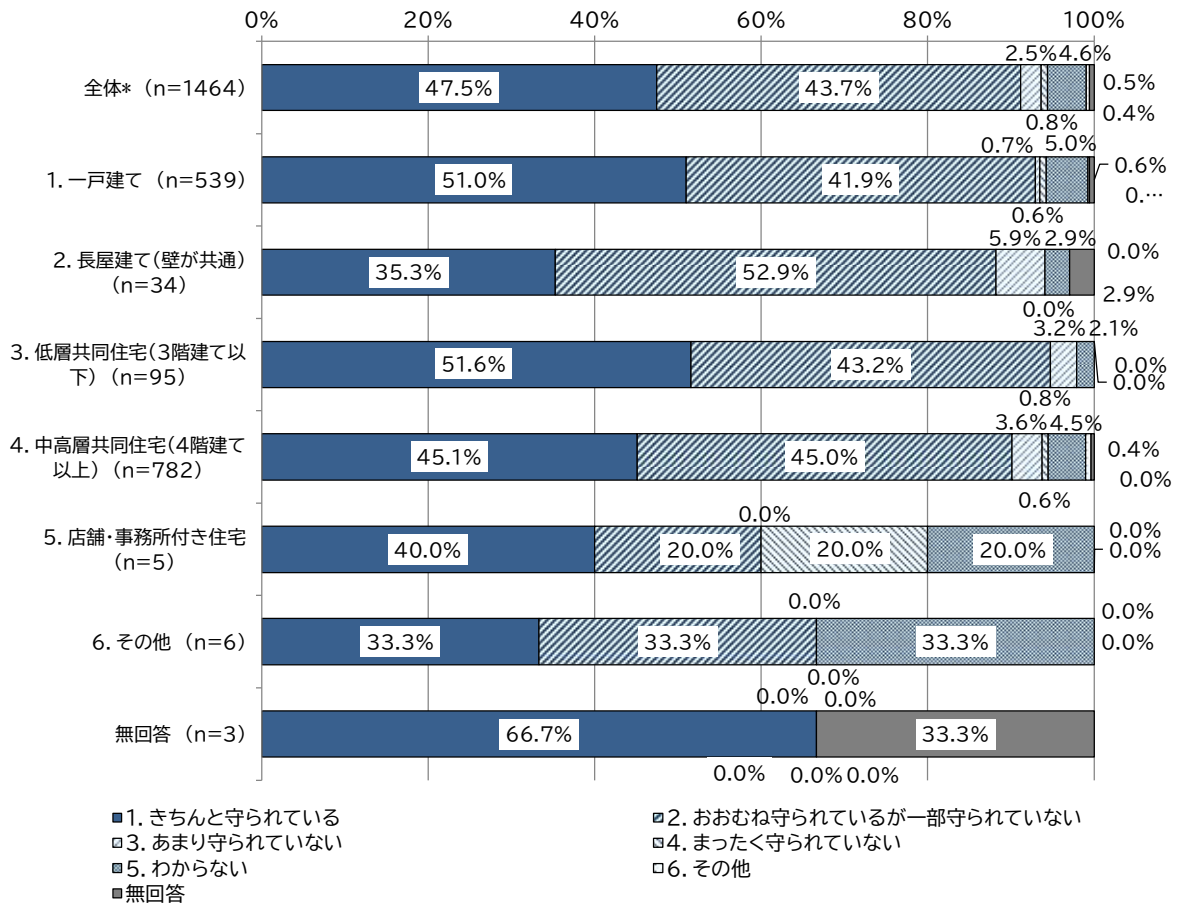
【地域別】

・地域別では、中央地域より北側の地域では「きちんと守られている」が50~60%と最も多くなっていますが、浜地域・南芦屋浜地域では「おおむね守られているが一部守られていない」が60%程度でした。



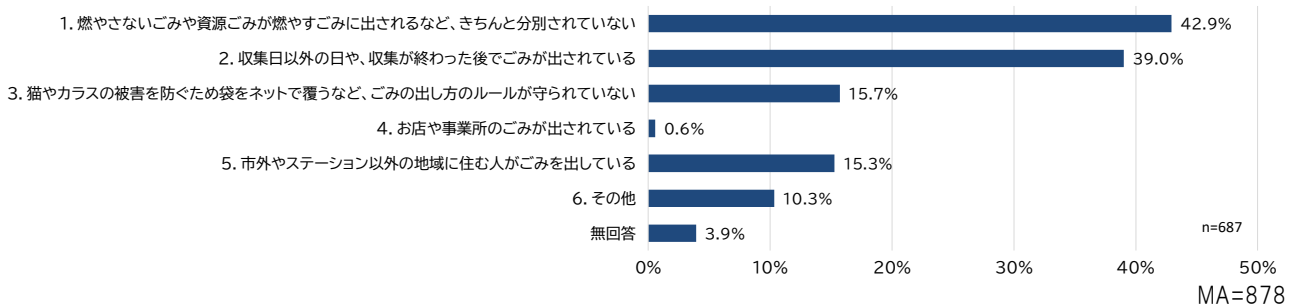
【住まいの形態別】

・住まいの形態別では、「できている」「おおむね守られているが一部守られていない」の合計は店舗・事務所付き住宅を除いて、9割程度となっています。



●ルールを守れていない点

・「燃やさないごみや資源ごみが燃やすごみに出されるなど、きちんと分別されていない」が最も多く42.9%となっています。次に「収集日以外の日や、収集が終わった後でごみが出されている」が39.0%となっています。

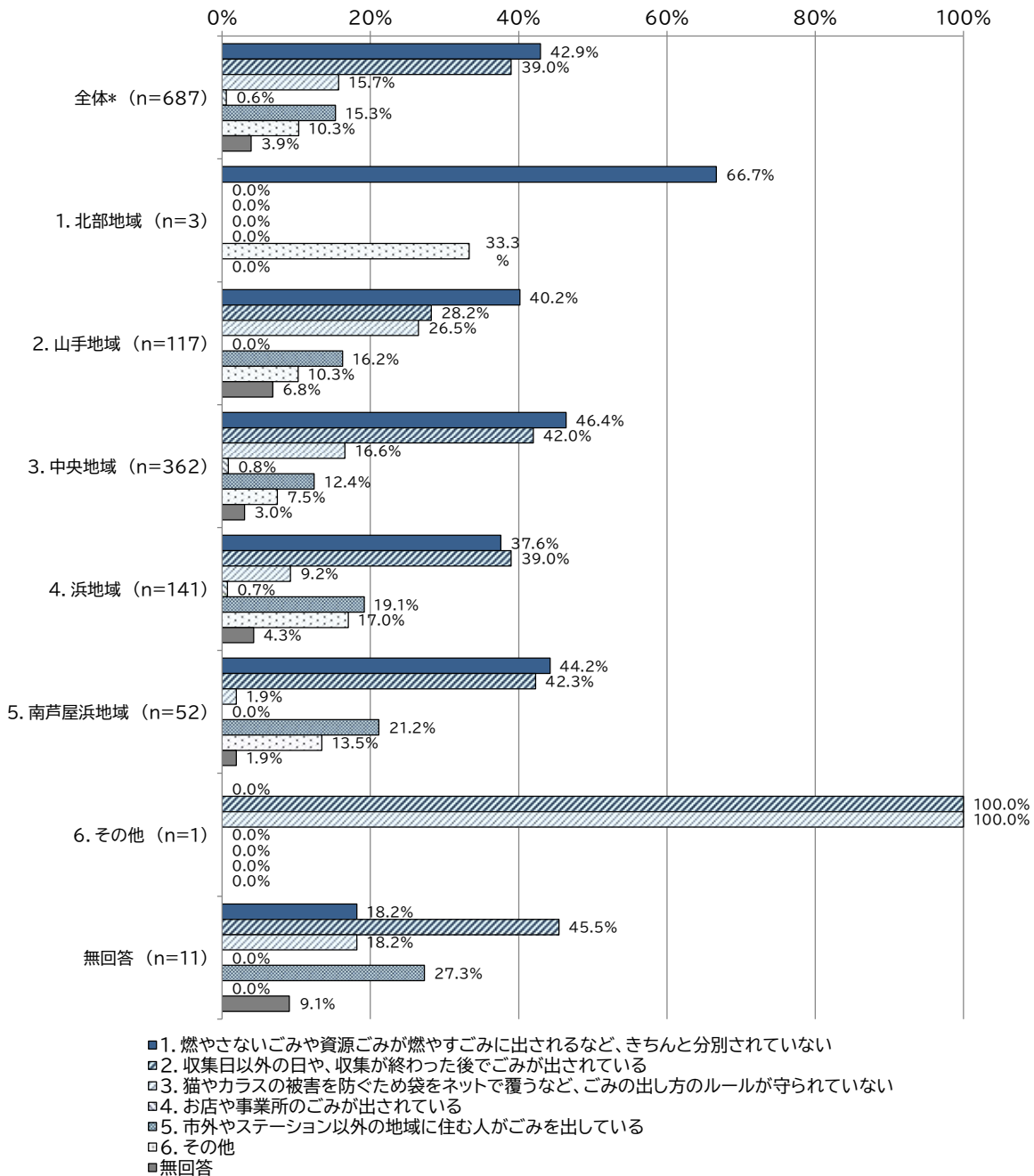


<その他の主な回答>

- ・ 指定袋を使用していない (21 件)
- ・ パイプライン関連 (18 件)
- ・ 収集されないものが排出されている (5 件)
- ・ 外国人関連 (4 件)
- ・ 引っ越しされて来た方へのルール周知 (3 件)
- ・ その他 (3 件)

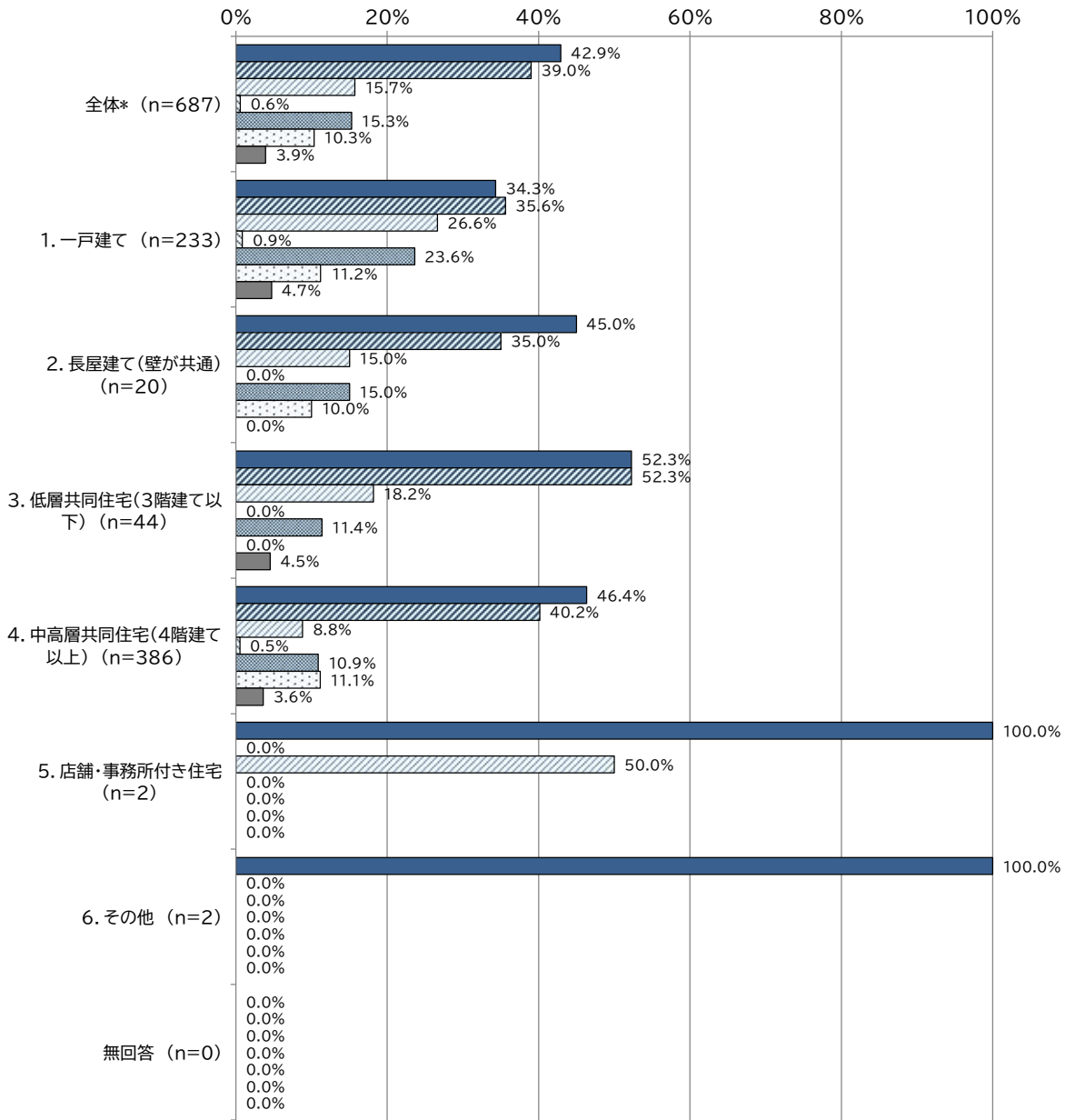
【地域別】

・地域別では、概ねいずれの地域においても「燃やさないごみや資源ごみが燃やすごみに出されるなど、きちんと分別されていない」が最も多くおおむね4割以上です。中央地域、浜地域、南芦屋浜地域では「収集日以外の日や、収集が終わった後でごみが出されている」が4割前後と多くなっています。



【住まいの形態別】

・住まいの形態別では、概ねいずれの形態においても「燃やさないごみや資源ごみが燃やすごみに出されるなど、きちんと分別されていない」と「収集日以外の日や、収集が終わった後でごみが出されている」の2つが3～5割程度となっています。

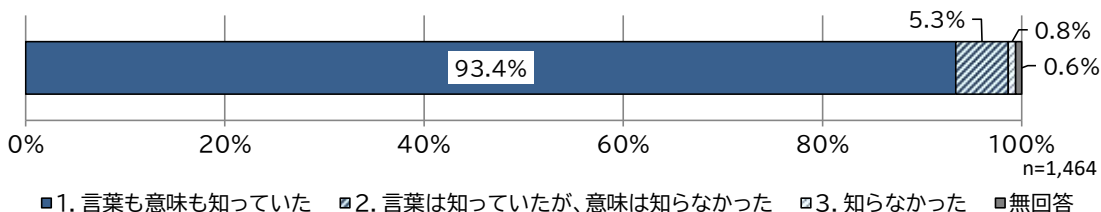


- 1. 燃やさないごみや資源ごみが燃やすごみに出されるなど、きちんと分別されていない
- 2. 収集日以外の日や、収集が終わった後でごみが出されている
- 3. 猫やカラスの被害を防ぐため袋をネットで覆うなど、ごみの出し方のルールが守られていない
- 4. お店や事業所のごみが出されている
- 5. 市外やステーション以外の地域に住む人がごみを出している
- 6. その他
- 無回答

(3) 食品ロス・廃食用油について

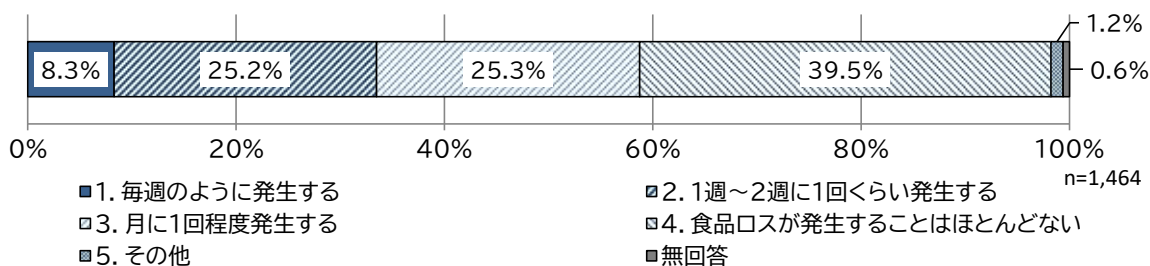
① 食品ロスという言葉の認知

・「言葉も意味も知っていた」が 93.4%と最も多く、次に「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」が 5.3%でした。



② 食品ロスの発生状況

・「食品ロスが発生することはほとんどない」が 39.5%と最も多く、次に「月に1回程度発生する」が 25.3%、「1週～2週に1回くらい発生する」が 25.2%でした。



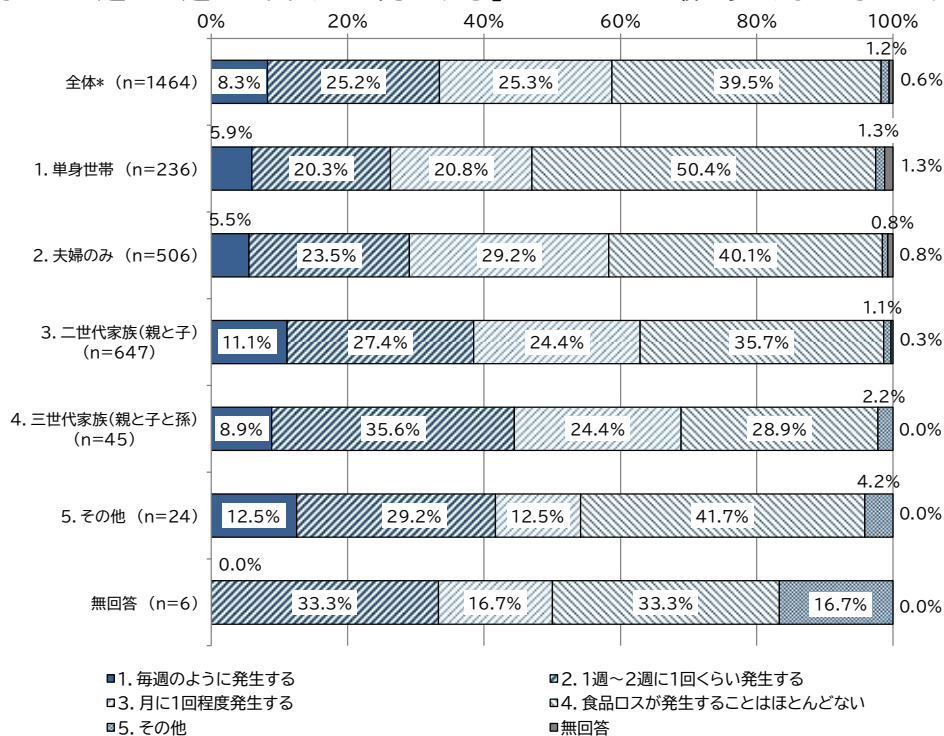
<その他の主な回答>

・年に数回 など

【家族構成別】

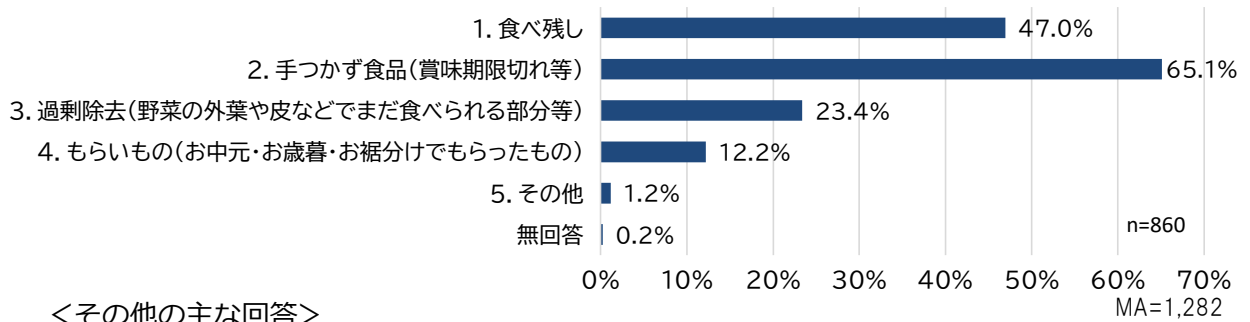
・家族構成別では、三世代家族以外の家族構成においては「食品ロスが発生することはほとんどない」がおおむね4割程度と最も多くなっています。

・三世代家族では「1週～2週に1回くらい発生する」が 35.6%と最も多くなっています。



●食品ロスの発生内容

・「手つかず食品（賞味期限切れ等）」が65.1%と最も多く、次に「食べ残し」が47.0%でした。

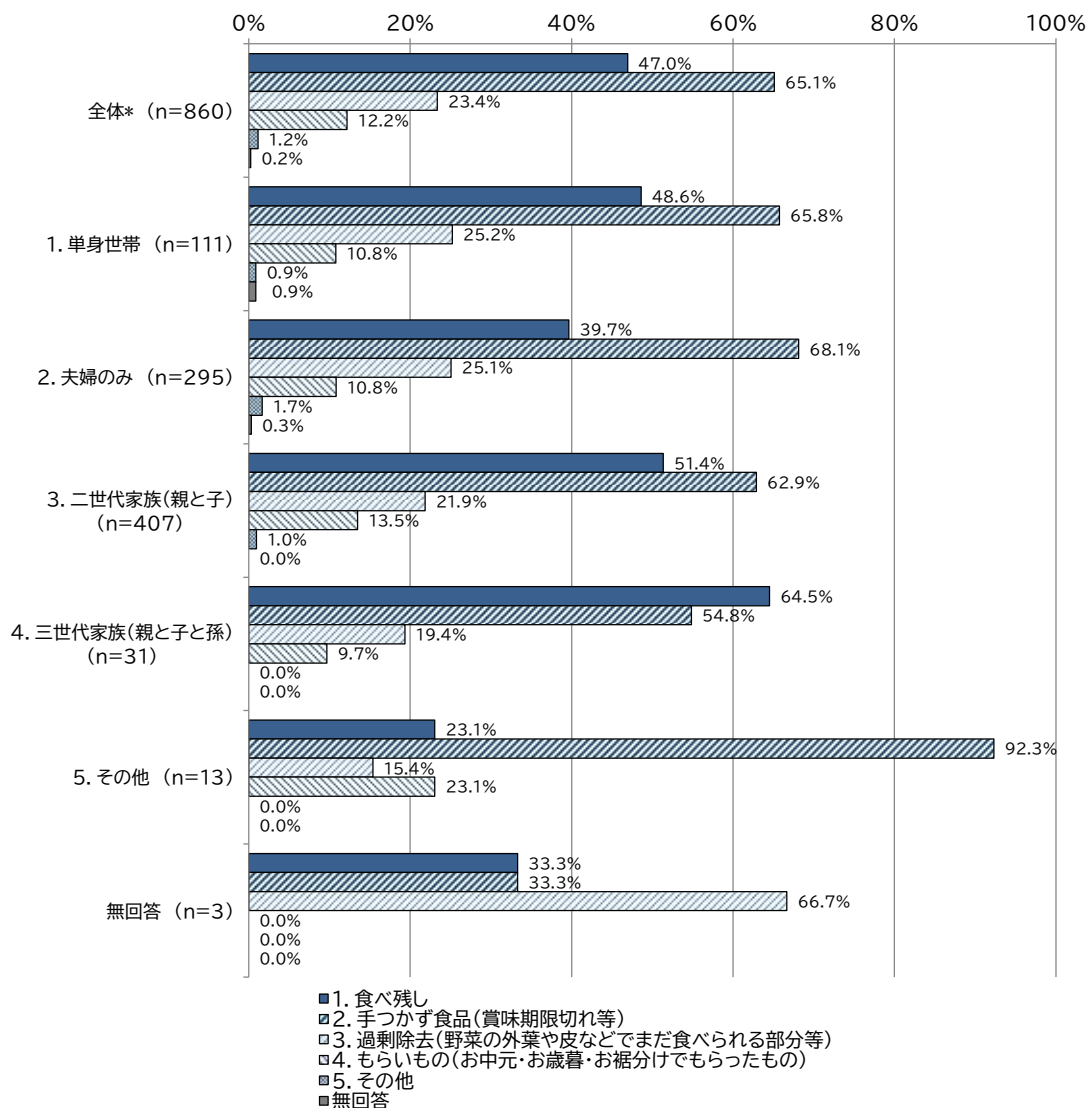


<その他の主な回答>

- ・使いかけの野菜など使おうとした時に傷んでいた
- ・食べきれずに残して忘れる など

【家族構成別】

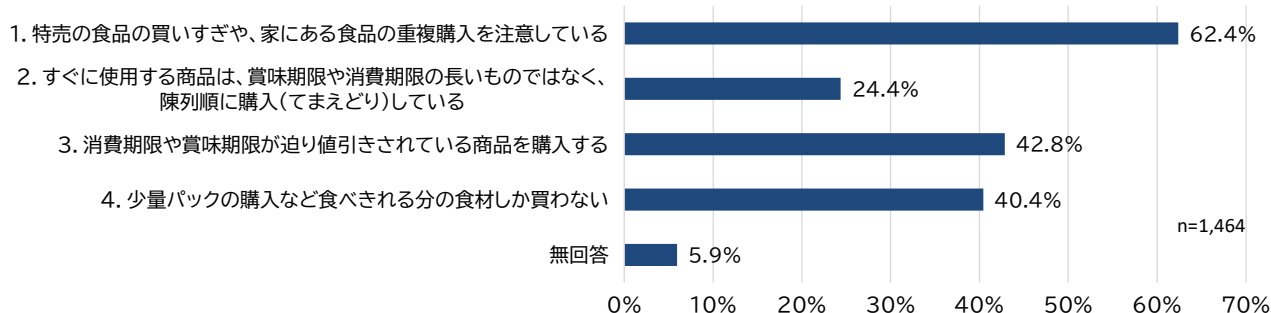
・家族構成別では、三世代家族以外の家族構成においては「手つかず食品（賞味期限切れ等）」が60%以上と最も多くなっていますが、三世代家族では「食べ残し」が64.5%と最も多くなっています。



③ 実践している食品ロス対策

● 食品購入時の取り組み

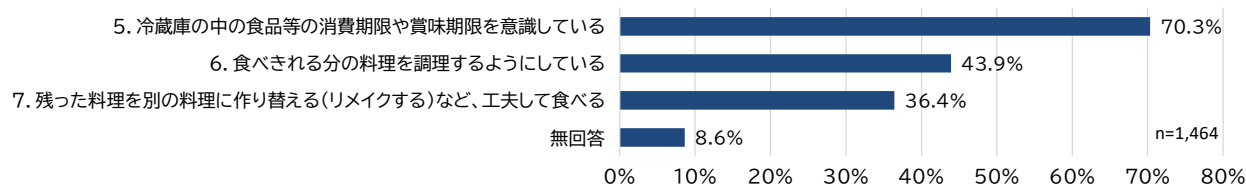
・「特売の食品の買いすぎや、家にある食品の重複購入を注意している」が62.4%と最も多く、次に「消費期限や賞味期限が迫り値引きされている商品を購入する」が42.8%、「少量パックの購入など食べきれの分の食材しか買わない」が40.4%でした。



MA=2,576

● 調理時の取り組み

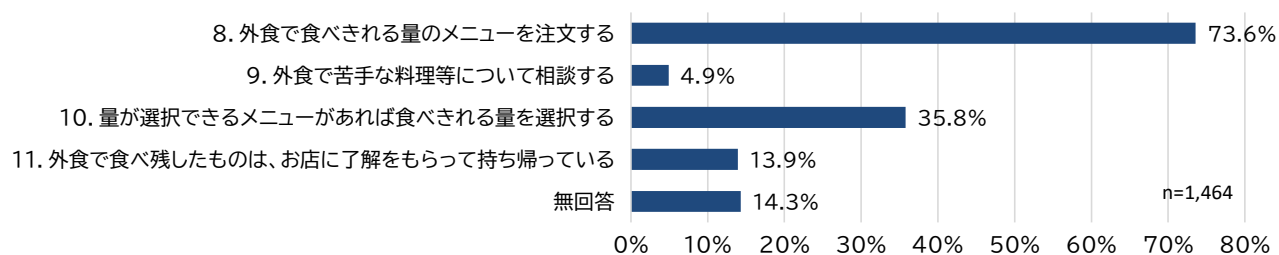
・「冷蔵庫の中の食品等の消費期限や賞味期限を意識している」が70.3%と最も多く、次に「食べきれの分の料理を調理するようにしている」が43.9%、「残った料理を別の料理に作り替える(リメイクする)など、工夫して食べる」が36.4%でした。



MA=2,331

● 外食時の取り組み

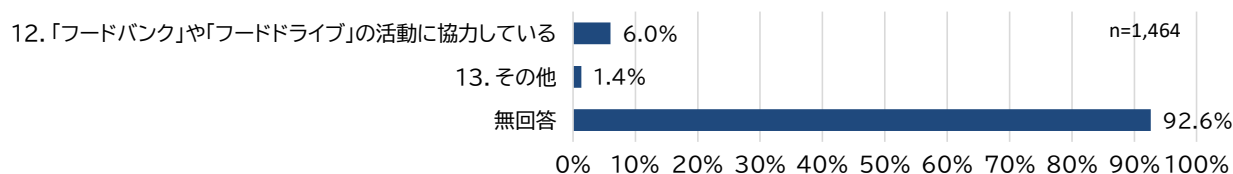
・「外食で食べきれの量のメニューを注文する」が73.6%と最も多く、次に「量が選択できるメニューがあれば食べきれの量を選択する」が35.8%でした。



MA=2,086

● その他の取り組み

・「フードバンクやフードドライブの活動に協力している」が6.0%でした。



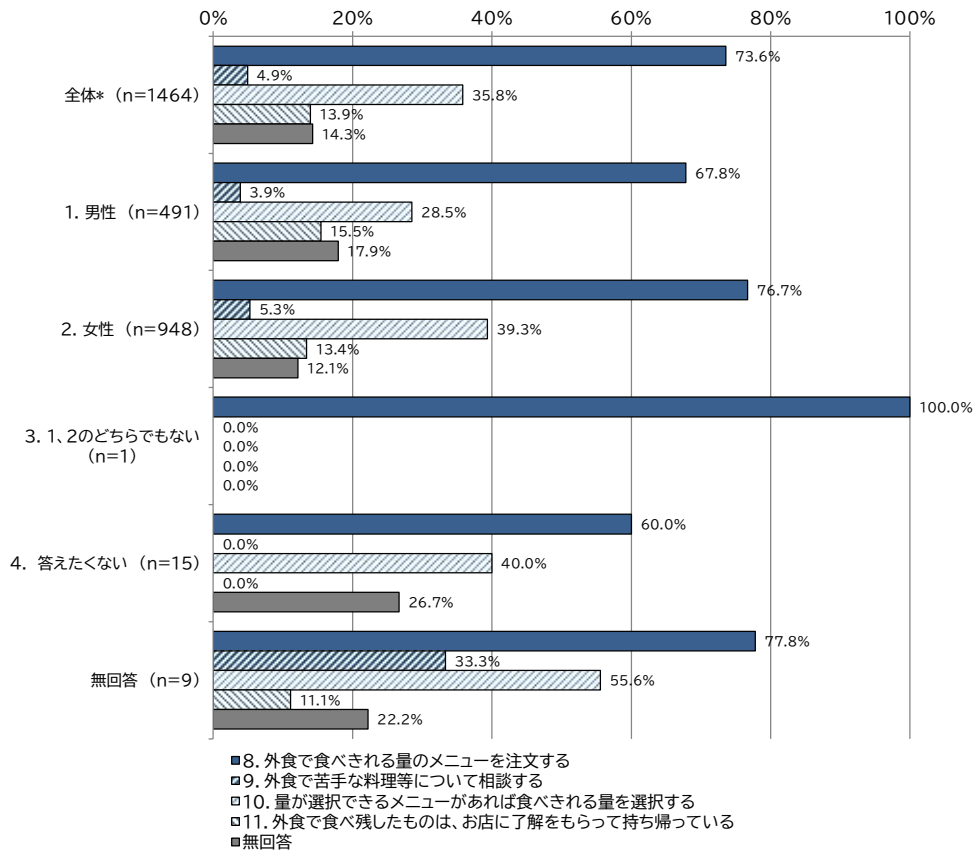
<その他の主な回答>

MA=1,464

- ・ 外食をしない
- ・ 食品ロスは出ない など

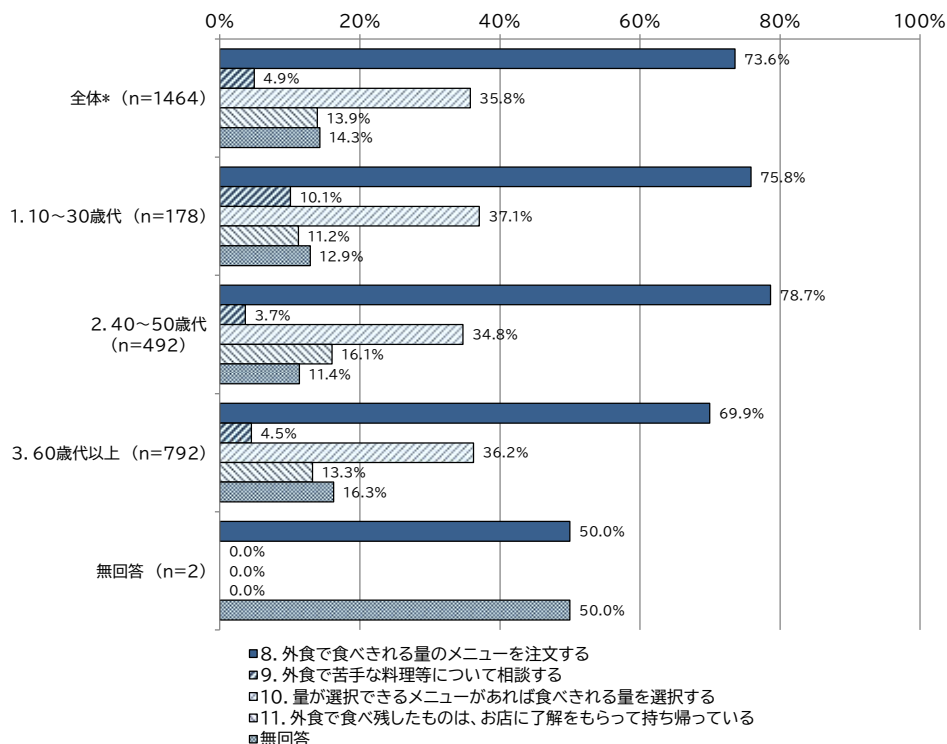
【性別】×外食時の取り組み

・性別では、いずれも「外食で食べきれる量のメニューを注文する」がおおよそ7割以上と最も多く、次に「量が選択できるメニューがあれば食べきれる量を選択する」が3～4割で性別による差は大きくありません。



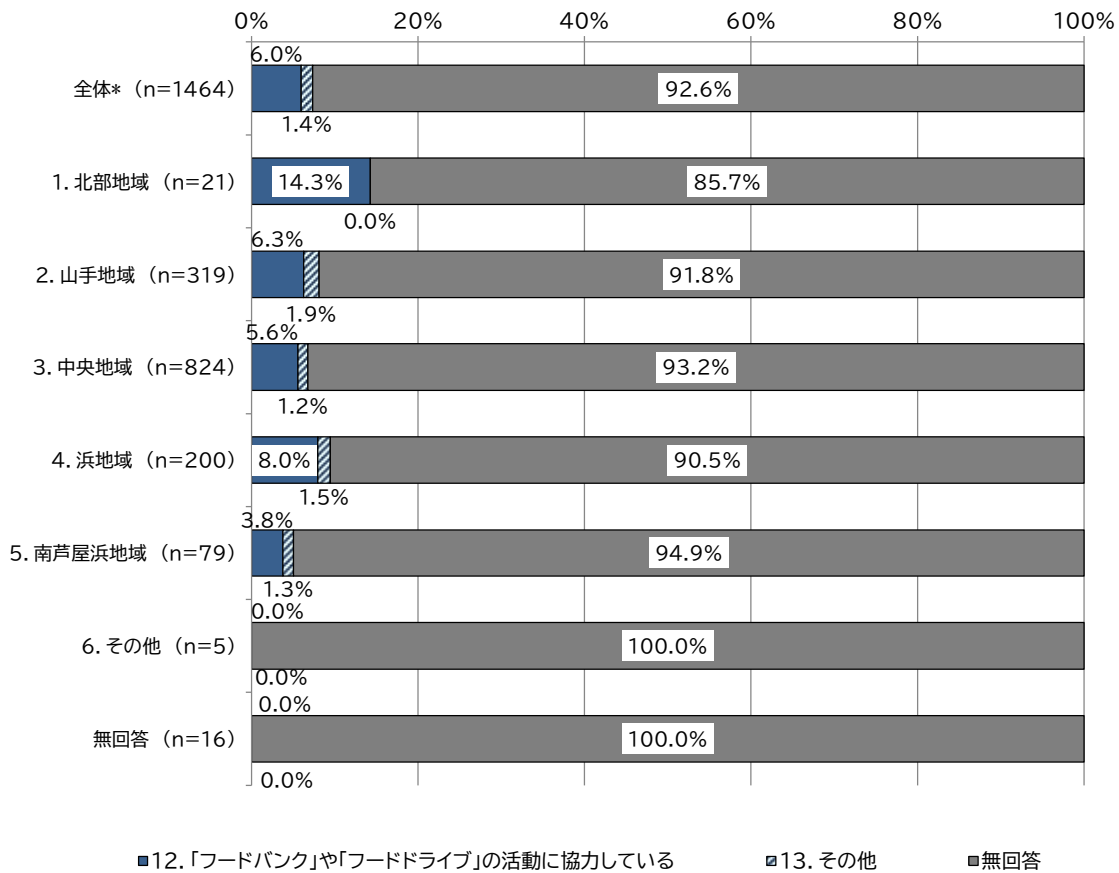
【年齢層別】×外食時の取り組み

・年齢層別では、いずれの年齢層でも「外食で食べきれる量のメニューを注文する」が約70%以上と最も多く、次に「量が選択できるメニューがあれば食べきれる量を選択する」が約30%以上でした。



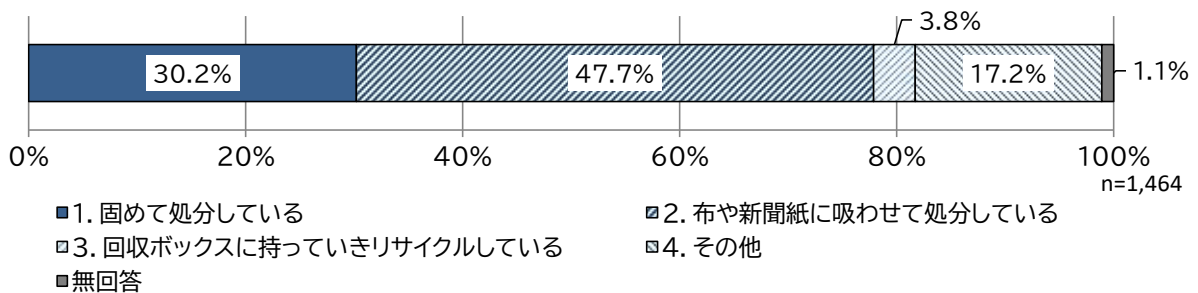
【地域別】×その他の取り組み

・地域別では、「フードバンクやフードドライブの活動に協力している」について、北部地域で 14.3%、浜地域で 8.0%となっています。



④ 廃食用油の処分

・「布や新聞紙に吸わせて処分している」が 47.7%と最も多く、次に「固めて処分している」が 30.2%、でした。「回収ボックスに持っていきリサイクルしている」は 3.8%となっています。

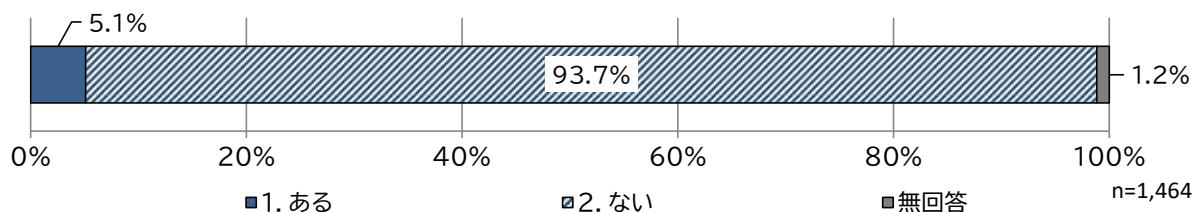


<その他の主な回答>

- ・油は使っていない・出ない (160 件)
- ・使い切る (41 件)
- ・生協で回収 (18 件)
- ・油を吸い取るパック (9 件) など

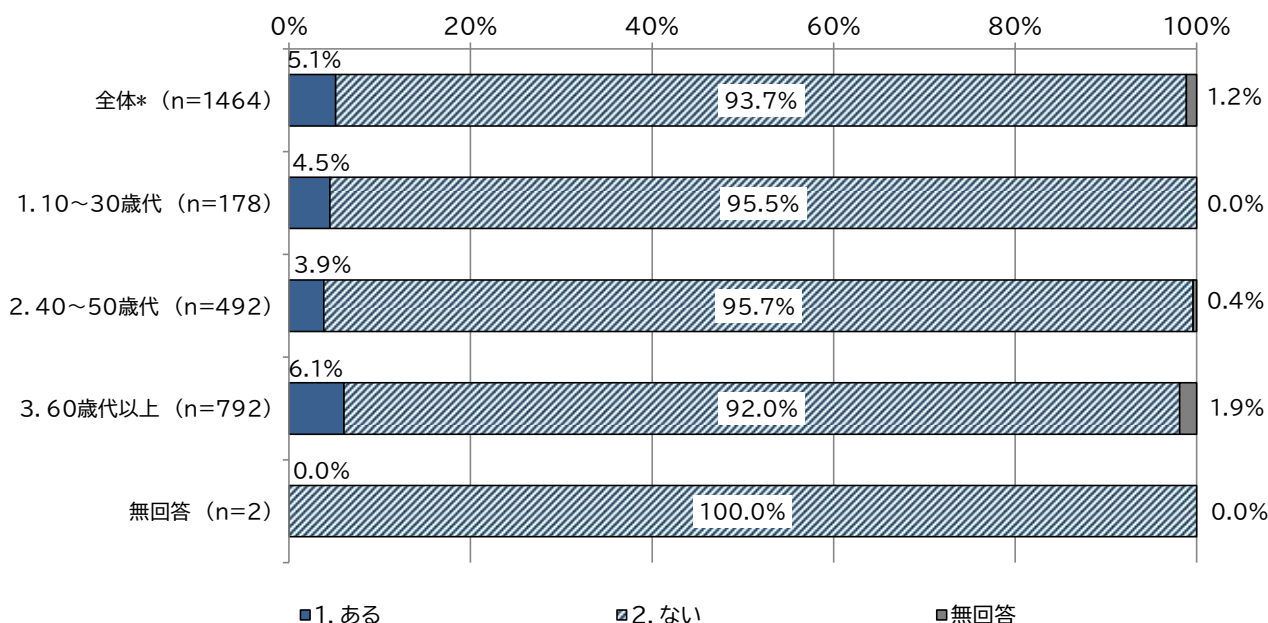
⑤ 「廃食用油」回収ボックスの利用

・「廃食用油」回収ボックスの利用について、「ある」が5.1%、「ない」が93.7%でした。



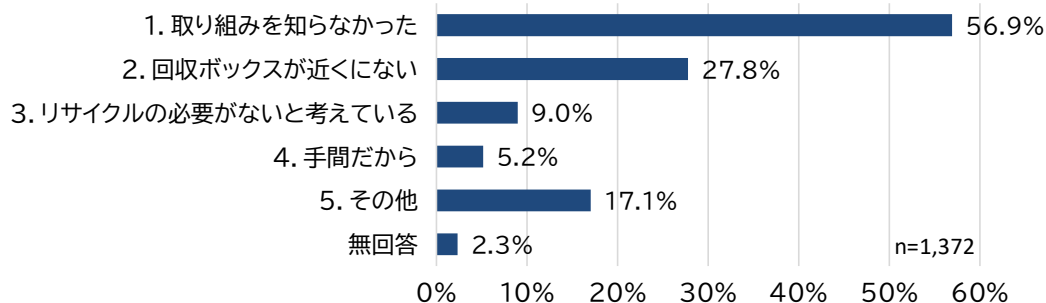
【年代別】

・廃食用油回収ボックスの利用について「ある」と回答された方について、年代別では、60歳代以上で6.1%と最も多くなっています。



●廃食用油回収ボックスを利用したことが「ない」理由

・廃食用油回収ボックスを利用したことが「ない」理由については、「取り組みを知らなかった」が56.9%と最も多く、次に「回収ボックスが近くにない」が27.8%でした。



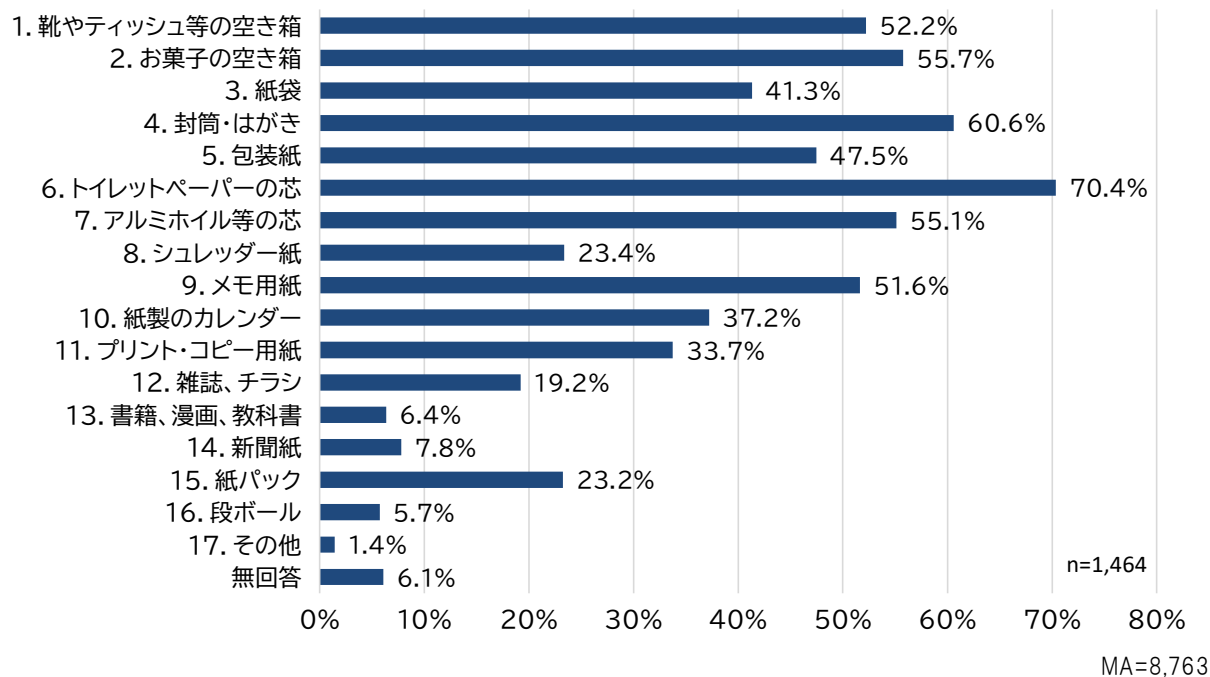
<その他の主な回答>

- ・廃油は出ない (198 件)
- ・回収ボックスの設置場所を知らない (15 件)
- ・生協に回収してもらっている (2 件) など

(4) ごみの分別について

① 燃やすごみで排出した紙資源

・燃やすごみで排出した紙資源については、「トイレトペーパーの芯」が70.4%と最も多く、次に「封筒・はがき」が60.6%、「お菓子の空き箱」が55.7%、「アルミホイル等の芯」が55.1%、「靴やティッシュ等の空き箱」が52.2%でした。

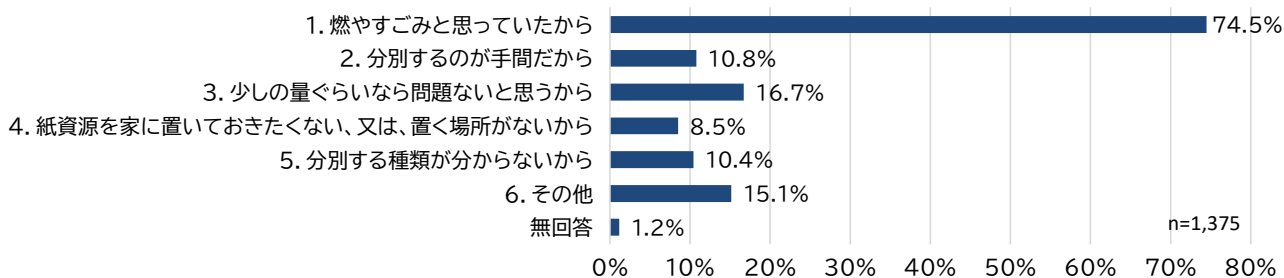


<その他の主な回答>

- ・医療機関からの領収書、薬の飲み方類
- ・インスタント麺のコップ
- ・汚れた紙
- ・きちんと紙資源として出している。 など

●紙資源を燃やすごみで排出した「理由」

・紙資源を燃やすごみで排出した「理由」については、「燃やすごみと思っていたから」が74.5%と最も多く、次に「少しの量ぐらいなら問題ないと思うから」16.7%でした。

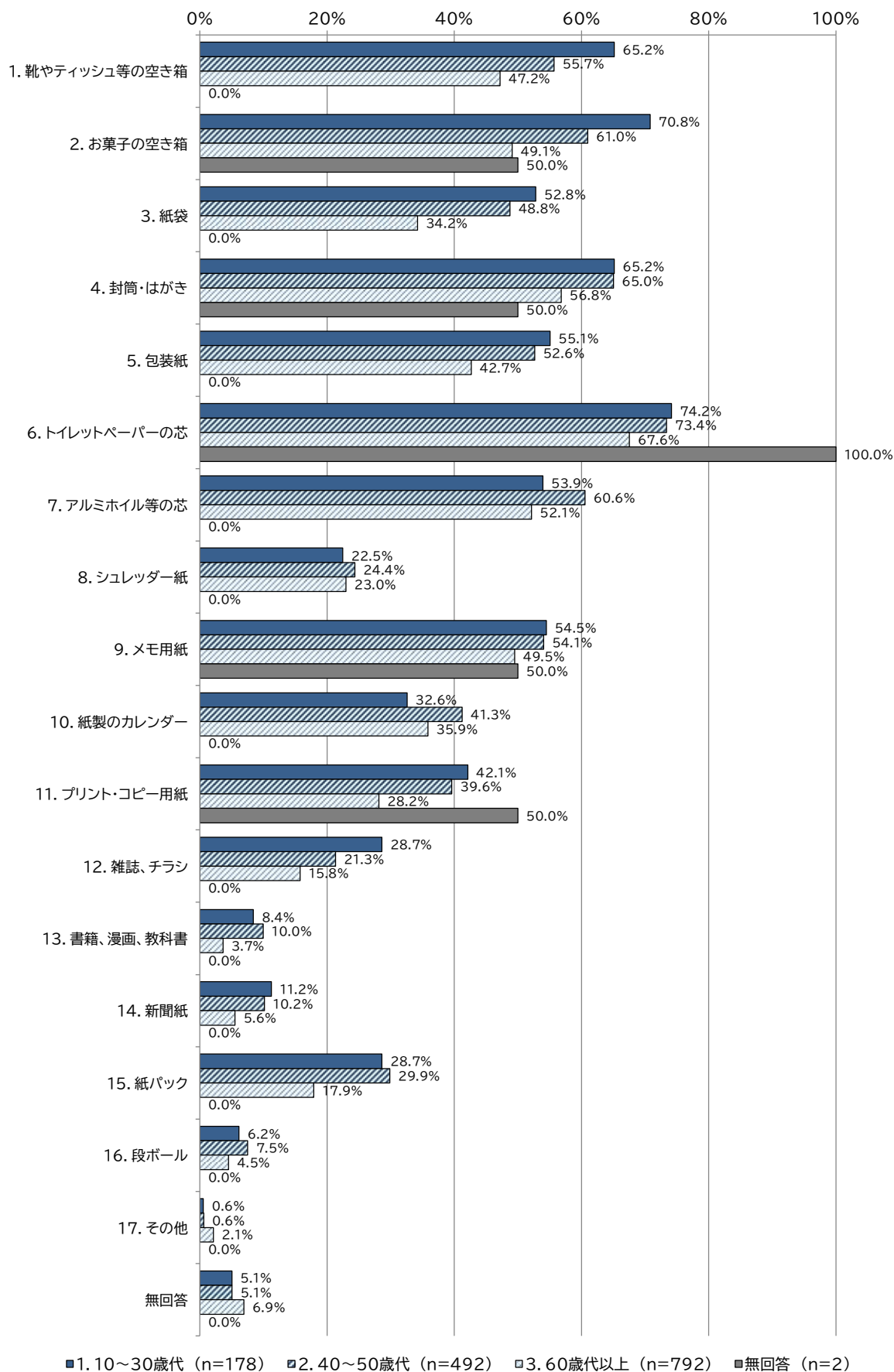


<その他の主な回答>

- ・プライバシー保護のため (127 件)
- ・汚れていたから (20 件) など

【年代別】×燃やすごみで排出した紙資源

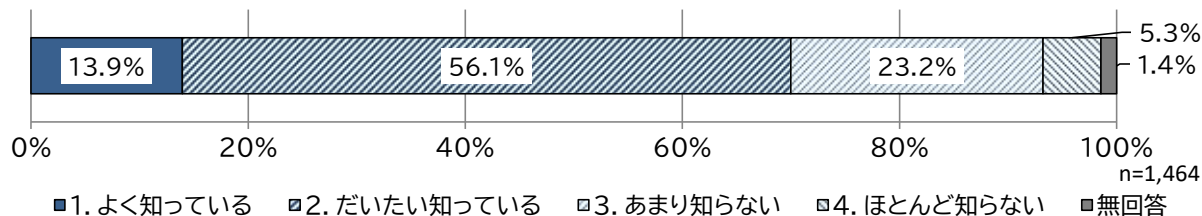
・年代別では、概ねいずれの品目においても年齢層が低いほど燃やすごみでの排出が多い傾向です。



(5) リチウムイオン電池のごみの出し方について

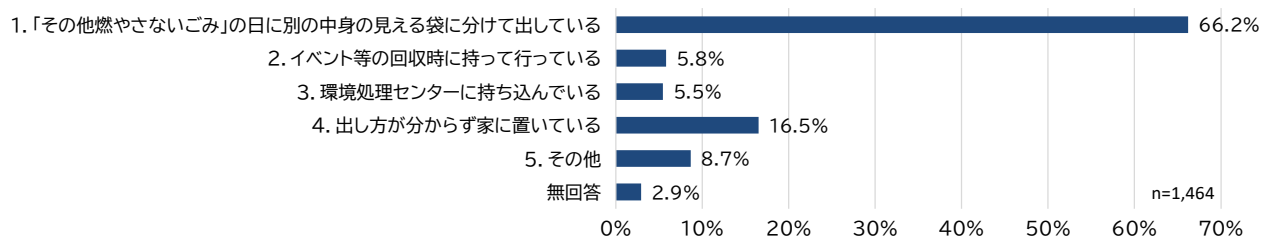
① リチウムイオン電池が含まれている製品の認知

・どのような製品にリチウムイオン電池が含まれているのかの認知については、「だいたい知っている」が56.1%と最も多く、次に「あまり知らない」が23.2%、「よく知っている」が13.9%でした。



● リチウムイオン電池の排出方法

・リチウムイオン電池（製品内蔵型含む）の排出方法については、「その他燃やさないごみの日に別の中身の見える袋に分けて出している」が66.2%と最も多く、次に「出し方が分からず家に置いている」が16.5%でした。



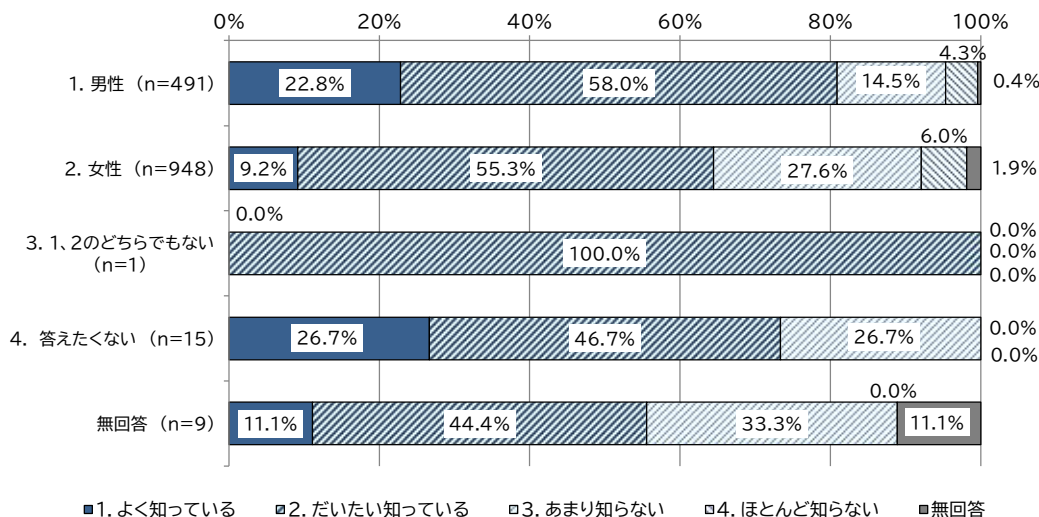
<その他の主な回答>

- ・家電量販店や電気屋の店頭にある回収ボックスへ持ち込む（63件）
- ・処分品がまだない、または出した経験がないため出していない（22件）
- ・マンションなどの集合住宅内に設置された回収場所を利用する（8件）
- ・火災リスク等を考慮し、出す前にネット等で調べる など

MA=1,546

【性別】×リチウムイオン電池が含まれている製品の認知

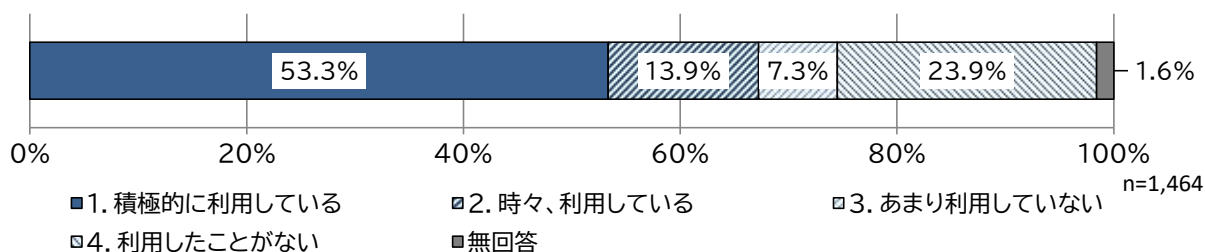
・性別では、「よく知っている」が男性は22.8%、女性は9.2%でした。



(6) 再生資源集団回収制度について

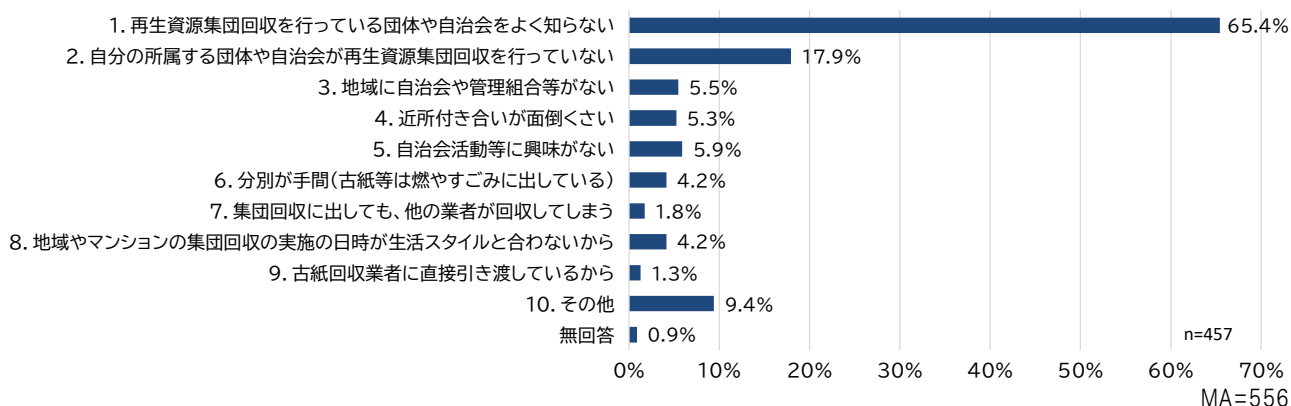
① 集団回収の利用状況

- ・自治会や管理組合等の集団回収の利用状況については、「積極的に利用している」が53.3%と最も多く、次に「利用したことがない」が23.9%でした。



● 集団回収を利用しない理由

- ・集団回収を利用しない理由については、「再生資源集団回収を行っている団体や自治会をよく知らない」が65.4%と最も多く、次に「自分の所属する団体や自治会が再生資源集団回収を行っていない」が17.9%でした。

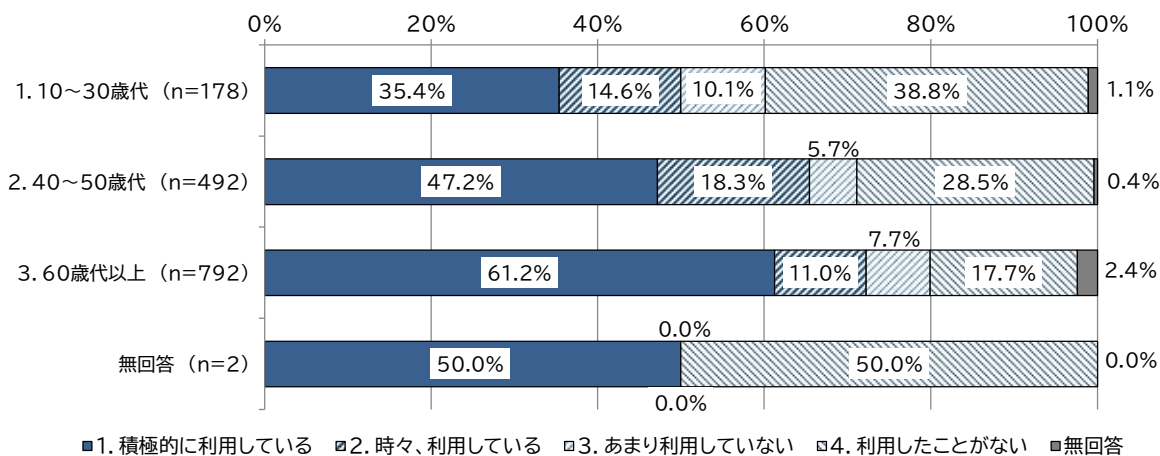


<その他の主な回答>

- ・回収場所や回収日時が分からない (8件)
- ・芦屋市の回収場所が、より近いため (5件)
- ・自治会に所属していない (3件)
- ・ごみが出ない (2件)
- ・雨の日に持っていつてもらえないことがあったので利用しない
- ・マンションの規約で古紙回収業者に引き渡している など

【年代別】×集団回収の利用状況

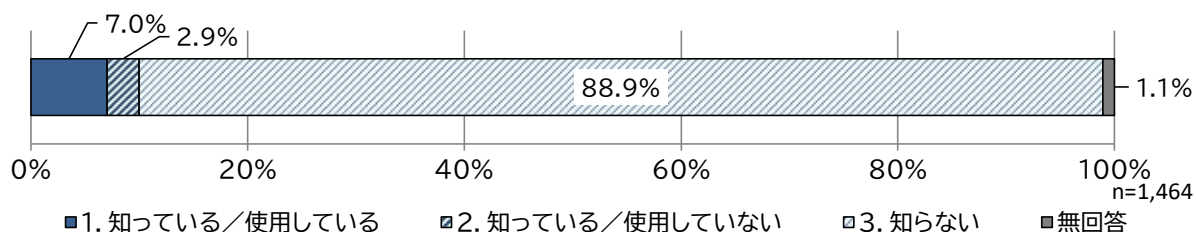
・年代別では、10～30歳代では「利用したことがない」が38.8%で、年齢層が高いほど集団回収を「積極的に利用している」傾向が見られます。



(7) ごみ減量や資源化に関する情報について

① ごみ分別アプリ「さんあ〜る」の認知

・ごみ分別アプリ「さんあ〜る」の認知については、「知らない」が88.9%と最も多く、「知っている／使用している」が7.0%、「知っている／使用していない」が2.9%でした。



●ごみ分別アプリ「さんあ〜る」を知っているが、使用していない理由（自由記述）

- ・困っていない・必要ない（24件）
- ・アプリのインストールや操作が面倒（2件）
- ・その他（4件）

② ごみの情報を入手する方法

●分別に関すること

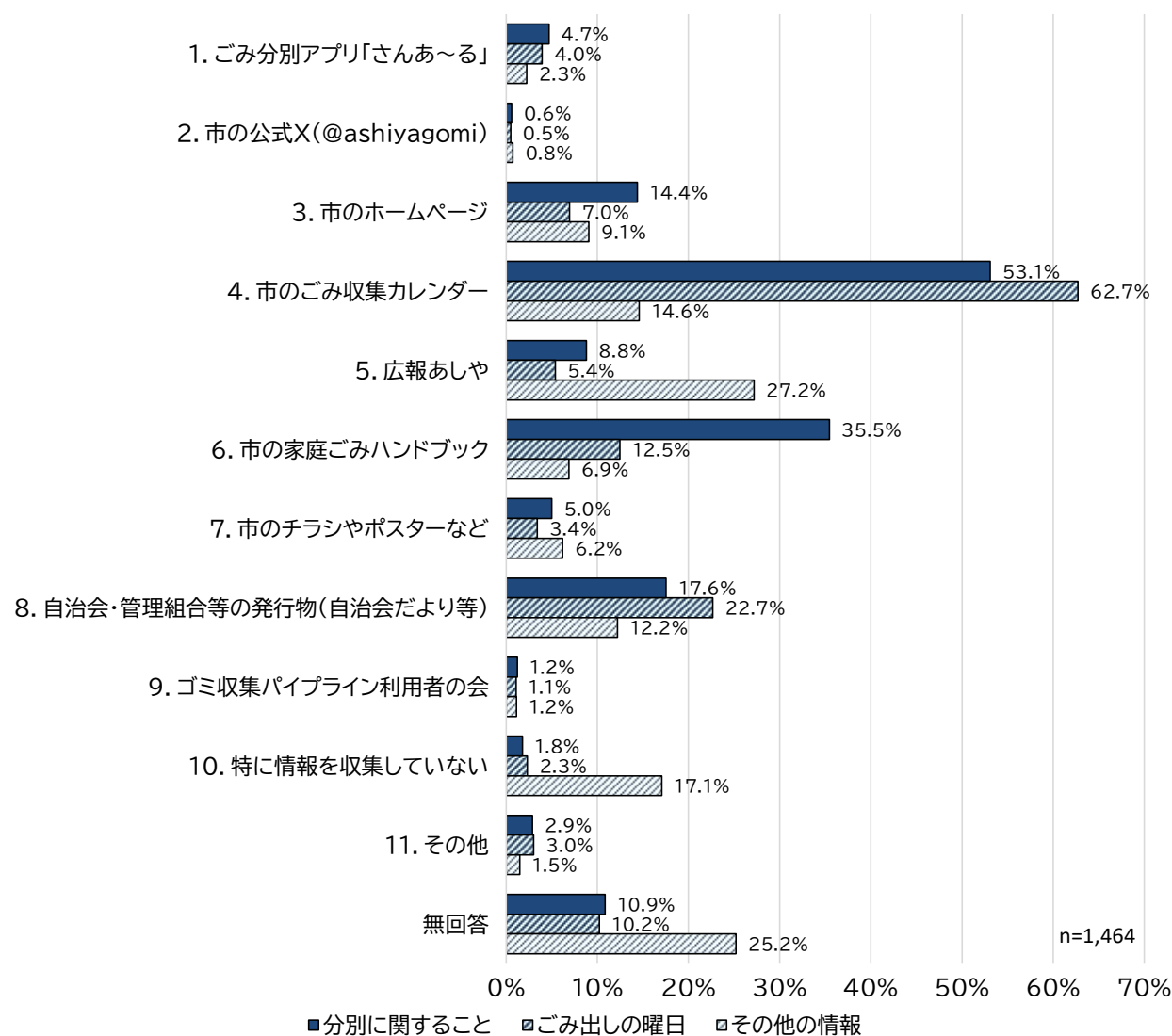
・分別に関することについては、「市のごみ収集カレンダー」が53.1%と最も多く、次に「市の家庭ごみハンドブック」が35.5%でした。

●ごみ出しの曜日に関すること

・ごみ出しの曜日に関することについては、「市のごみ収集カレンダー」が62.7%と最も多く、次に「自治会・管理組合等の発行物（自治会だより等）」が22.7%でした。

●その他の情報に関すること

・その他の情報に関することについては、「広報あしや」が27.2%と最も多く、次に「特に情報を収集していない」が17.1%でした。

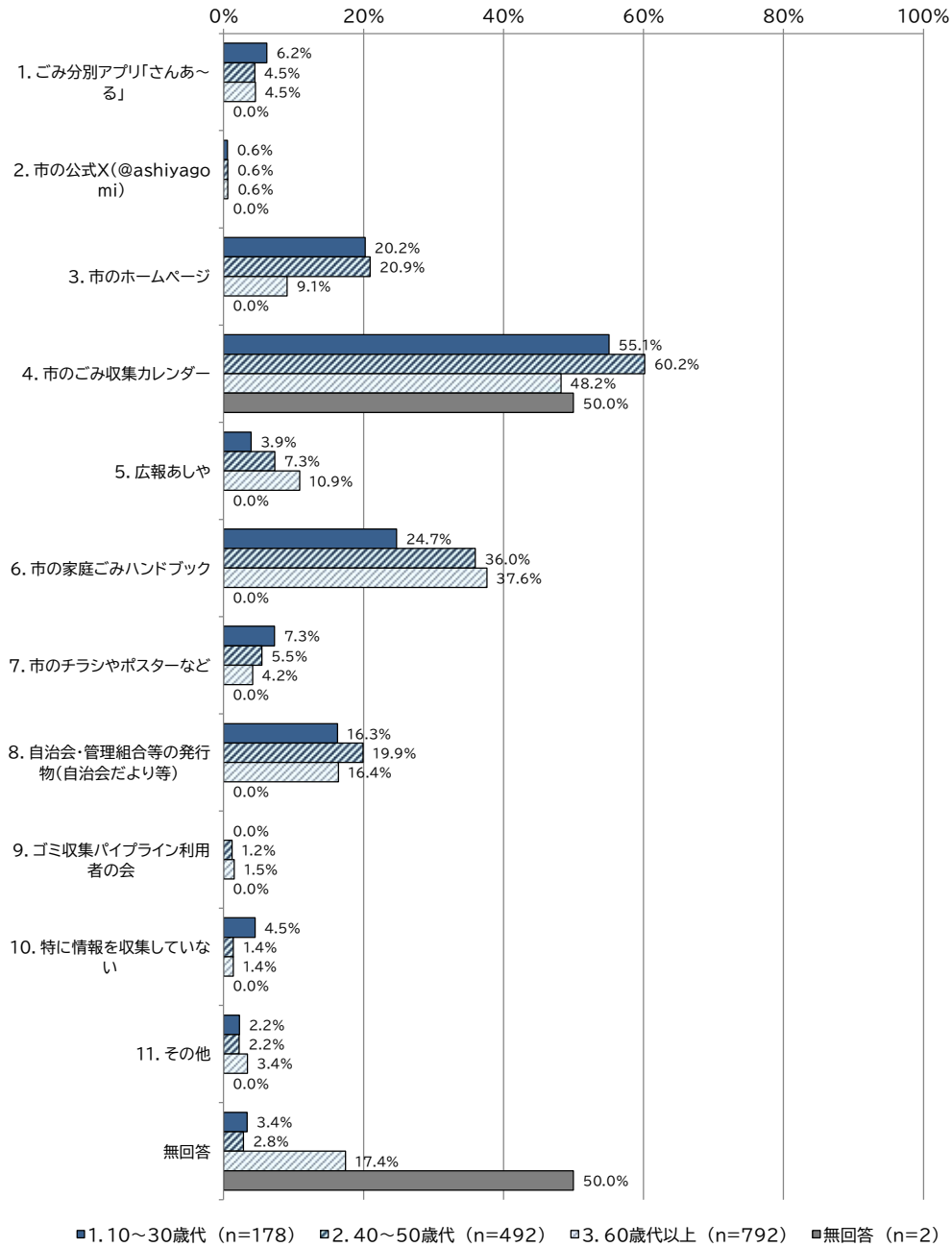


<その他の主な回答>

- ・分別に関すること (39件)
- ・ごみ出しの曜日 (0件)
- ・その他の情報 (21件)

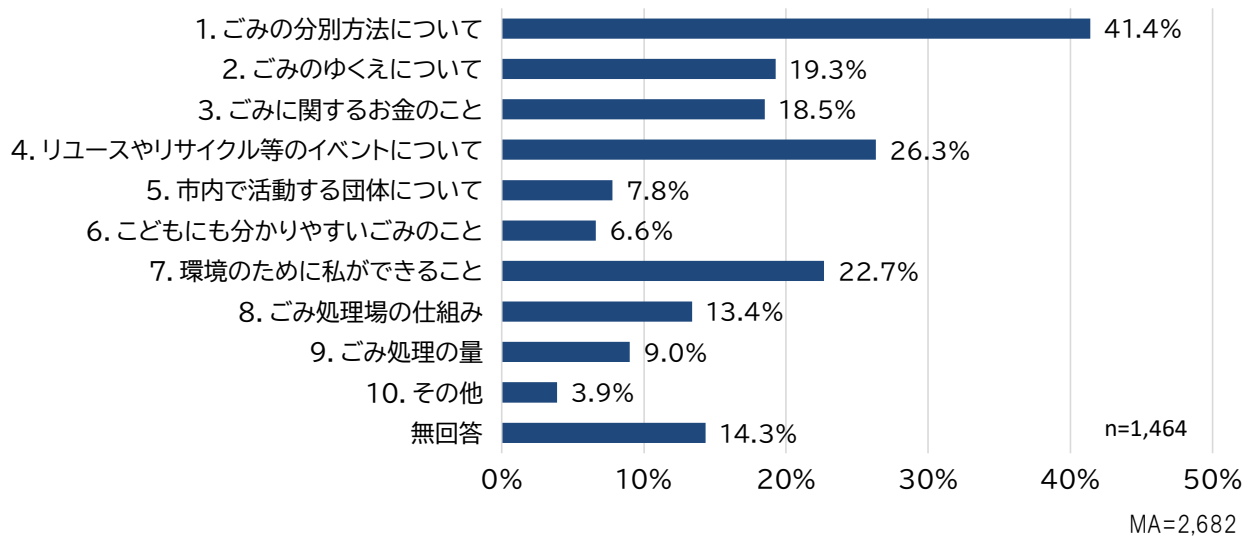
【年代別】ごみの情報を入手する方法「分別に関すること」

・ごみの情報を入手する方法「分別に関すること」について年代別では、いずれの年代においても「市のごみ収集カレンダー」がおおむね5～6割と高くなっています。



③ 知りたい情報

・知りたい情報については、「ごみの分別方法について」が41.4%と最も多く、次に「リユースやリサイクル等のイベントについて」が26.3%、「環境のために私ができること」が22.7%でした。



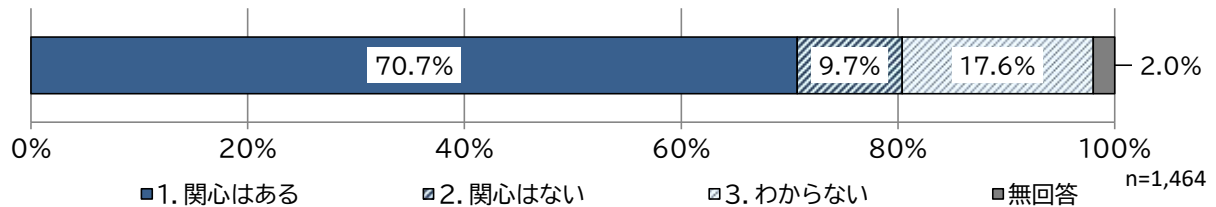
<その他の主な回答>

- ・市の取組に対する効果 (8 件)
- ・ごみの捨て方 (8 件)
- ・その他 (22 件)
- ・特になし・関心なし (16 件)

(8) プラスチックのリサイクルについて

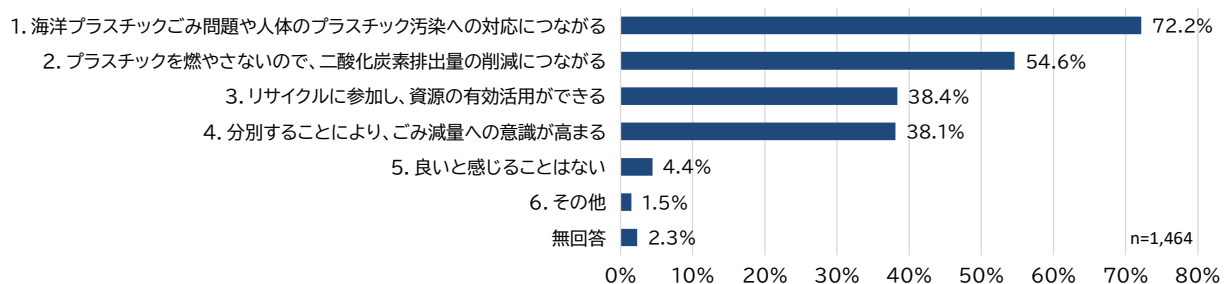
① プラスチックのリサイクルへの関心

・プラスチックのリサイクルへの関心については、「関心はある」が70.7%、「関心はない」が9.7%でした。



② プラスチックのリサイクルで良いと感じること

・プラスチックのリサイクルで良いと感じることについては、「海洋プラスチックごみ問題や人体のプラスチック汚染への対応につながる」が72.2%で最も多く、次に「プラスチックを燃やさないことで、二酸化炭素排出量の削減につながる」が54.6%でした。

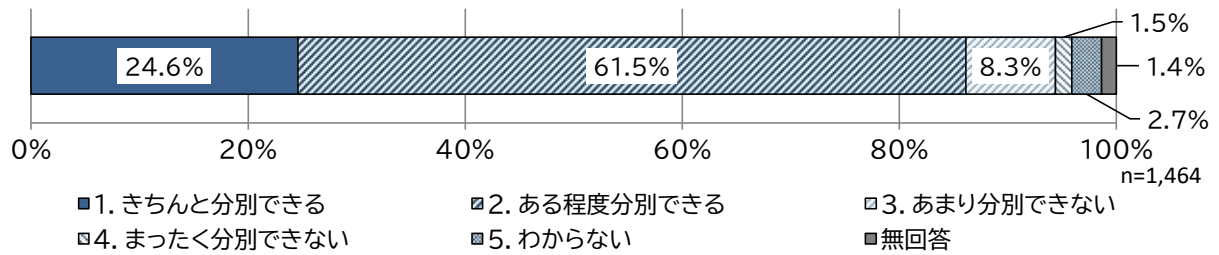


<その他の主な回答>

- ・疑問や課題がある (9件)
- ・その他 (9件)

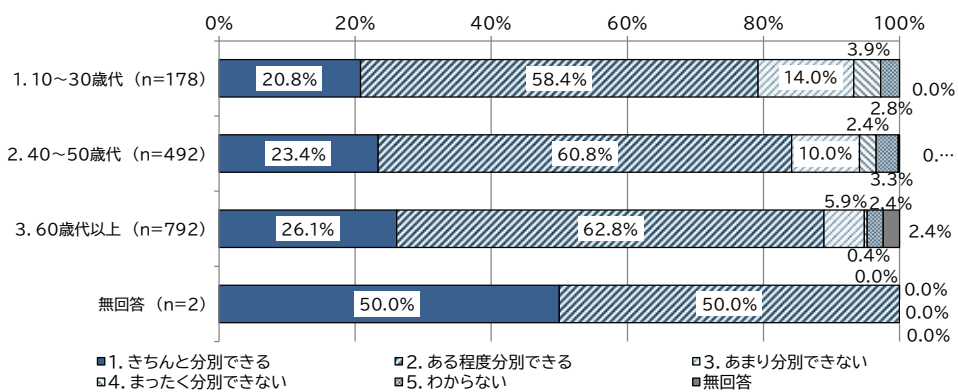
③ プラスチックの分別について

・プラスチックの分別については、「ある程度分別できる」が61.5%で最も多く、次に「きちんと分別できる」が24.6%で、合わせて「分別できる」が86.1%でした。



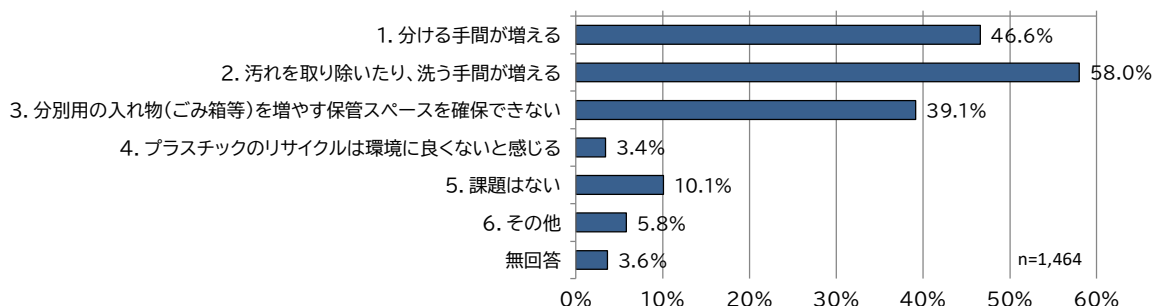
【年代別】×プラスチックの分別

・年代別では、年齢層が高いほど「分別できる」と考えている傾向が見られます。



④ プラスチックのリサイクルにおける課題

・プラスチックのリサイクルにおける課題については、「汚れを取り除いたり、洗う手間が増える」が58.0%で最も多く、次に「分ける手間が増える」が46.6%、「分別用の入れ物（ごみ箱等）を増やす保管スペースを確保できない」が39.1%でした。

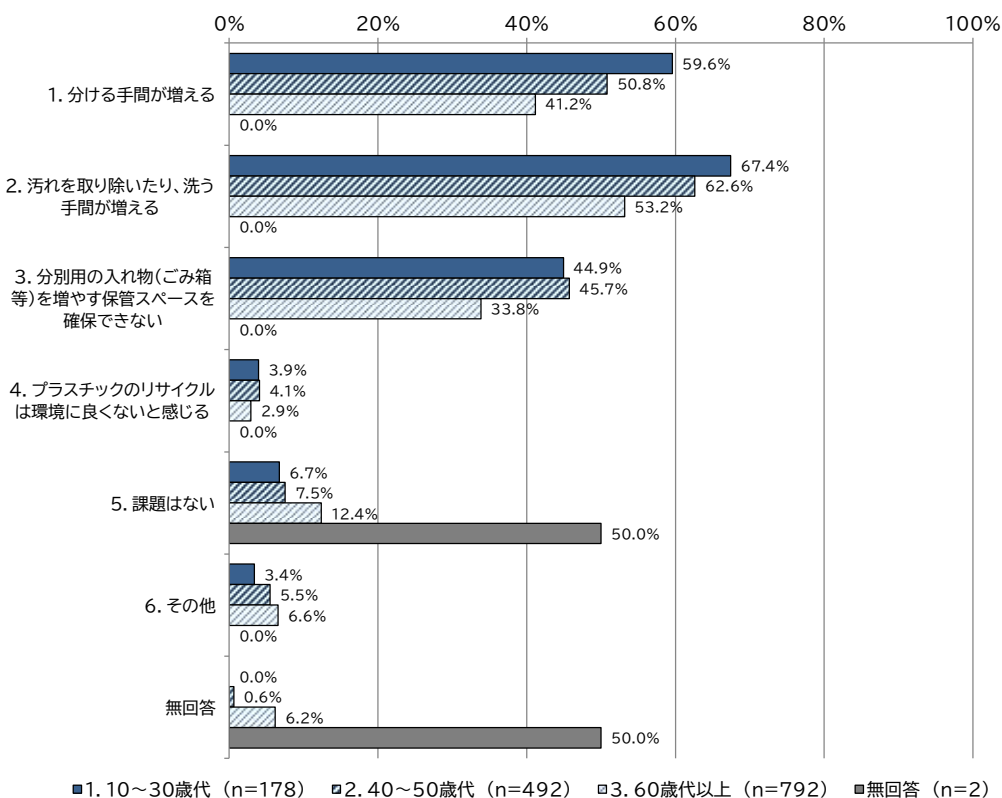


<その他の主な回答>

- ・プラスチックのリサイクルは費用がかかる・成果が見えにくい（19件）
- ・分別が難しい（14件）
- ・出す場所・日時が分かりづらい（6件）
- ・その他（26件）

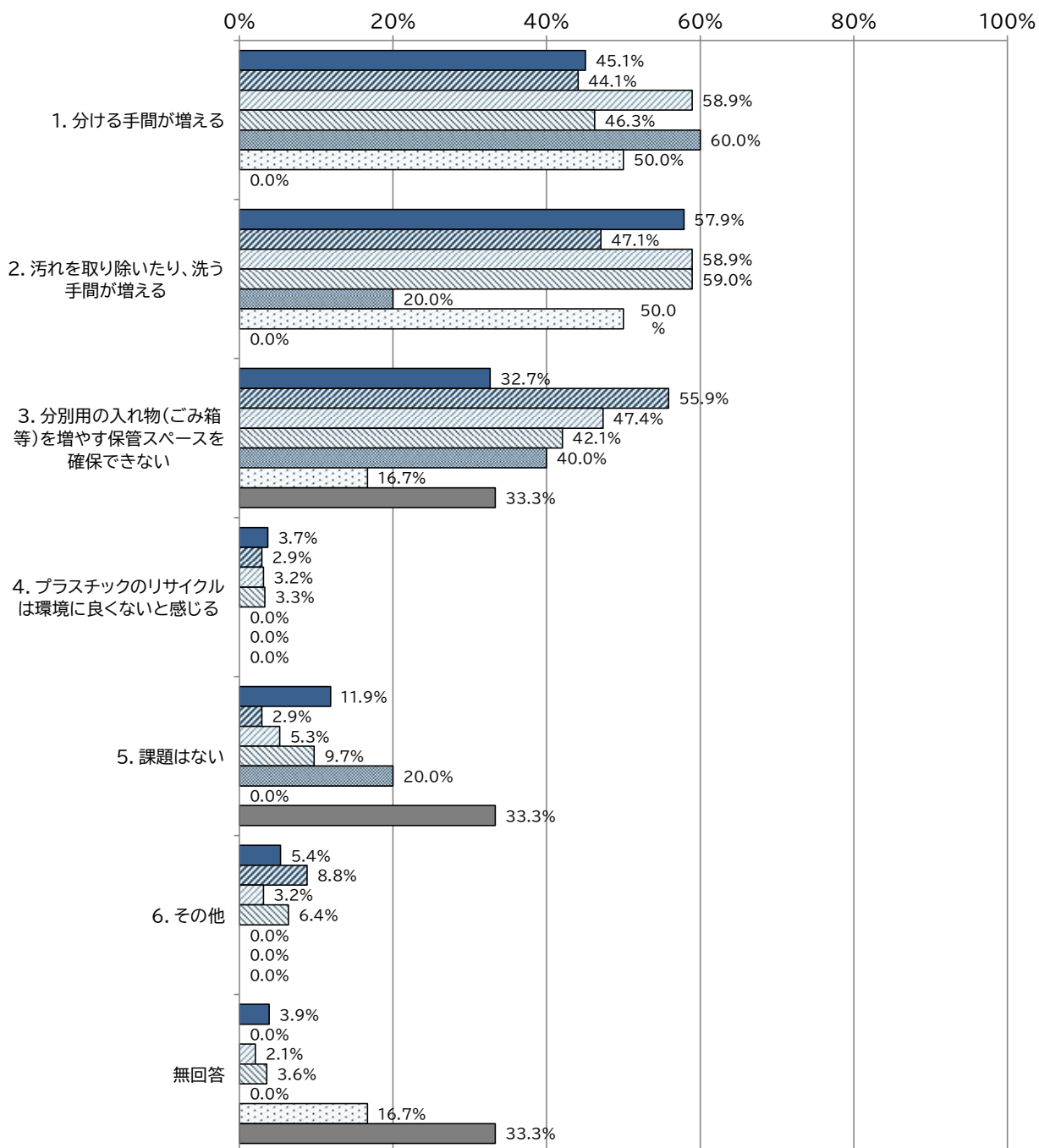
【年代別】×リサイクルにおける課題

・リサイクルにおける課題について、年代別では、10～30歳代では「汚れを取り除いたり、洗う手間が増える」が67.4%、「分ける手間が増える」が59.6%で、年齢層が低いほど「手間が増える」など課題と考えている傾向が見られます。



【住居形態別】×リサイクルにおける課題

・住居形態の違いにより「分別用の入れ物（ごみ箱等）を増やす保管スペースを確保できない」を課題と捉える方の割合が異なり、一戸建てでは 32.7%ですが、長屋建てや共同住宅では4～6割となっています。



■1. 一戸建て (n=539)

□3. 低層共同住宅(3階建て以下) (n=95)

■5. 店舗・事務所付き住宅 (n=5)

■無回答 (n=3)

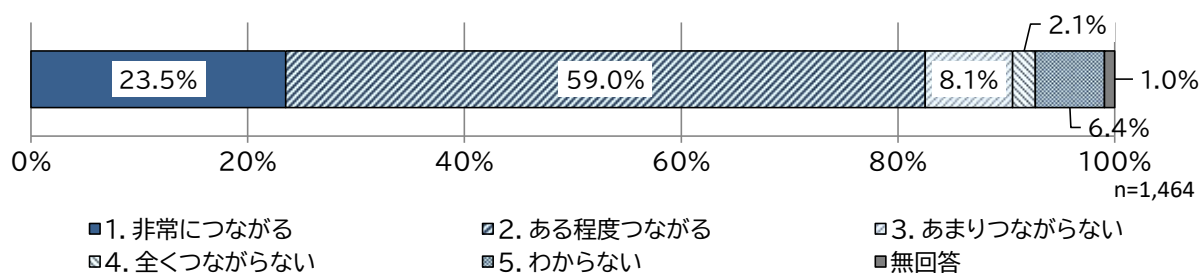
■2. 長屋建て(壁が共通) (n=34)

□4. 中高層共同住宅(4階建て以上) (n=782)

□6. その他 (n=6)

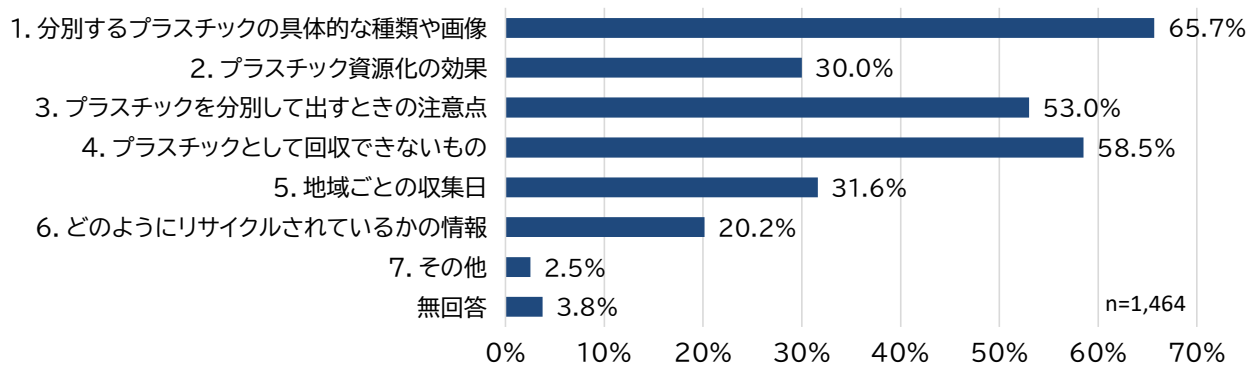
⑤ プラスチックのリサイクルは、市民のごみや資源の分別意識向上につながると思うか

・「ある程度つながる」が 59.0%で最も多く、次に「非常につながる」が 23.5%、「あまりつながらない」が 8.1%でした。



⑥ プラスチックのリサイクルに関して知りたい情報

・プラスチックのリサイクルに関して知りたい情報については、「分別するプラスチックの具体的な種類や画像」が 65.7%で最も多く、次に「プラスチックとして回収できないもの」が 58.5%、「プラスチックを分別して出すときの注意点」が 53.0%でした。



<その他の主な回答>

- ・プラスチックのリサイクルが必要である根拠 (14 件)
- ・効果とデメリット (7 件)
- ・その他 (16 件)

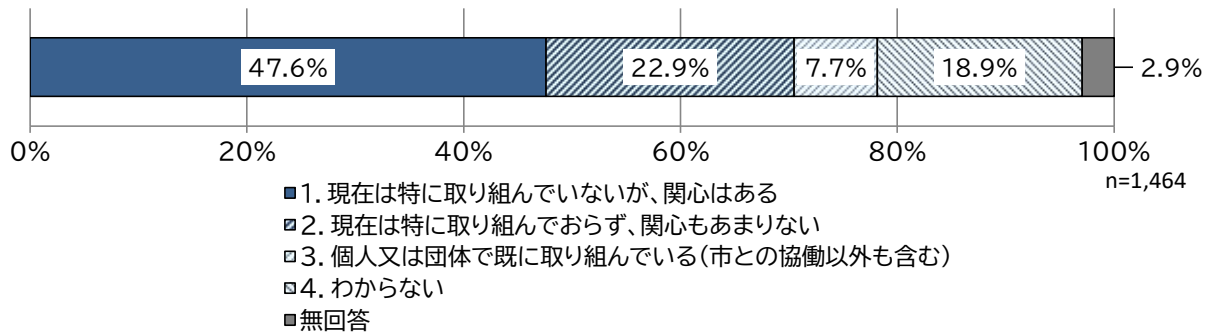
⑦ プラスチックのリサイクルや分別について、気になることやわからないこと (自由記述)

- ・分別ルール、汚れの基準等がわからない (96 件)
- ・リサイクルに意味があるのか (45 件)
- ・協力する (30 件)
- ・プラスチックの分別回収はやめてほしい (17 件)
- ・提案 (16 件)
- ・過剰包装を行うメーカーや小売店を指導すべき (11 件)
- ・指定ごみ袋の種類が増えるのか・有料なのか (7 件)
- ・保管場所の確保が難しい (6 件)
- ・洗浄や乾燥の手間が大きい (5 件)
- ・回収頻度 (2 件)
- ・神戸市との広域処理連携 (2 件)
- ・自治会など地域団体による取組の推進 (21 件)
- ・その他 (13 件)

(9) 3R (リデュース・リユース・リサイクル) を推進する取り組みについて

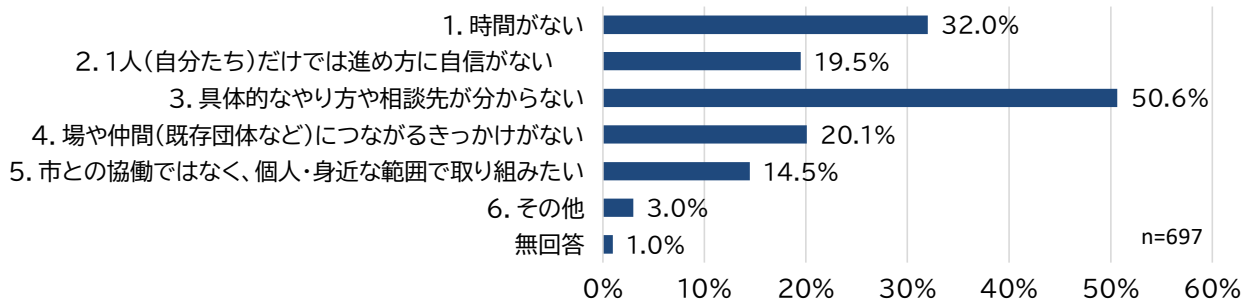
① 市民と市が協働して行う3R等の取り組みへの関心

・市民(団体)と市が協働して行う3R等の取り組みへの関心については、「現在は特に取り組んでいないが、関心はある」が47.6%で最も多く、次に「現在は特に取り組んでおらず、関心もあまりない」が22.9%、「わからない」が18.9%でした。



● 関心があっても取り組みが難しい理由

・関心があっても取り組みが難しい理由については、「具体的なやり方や相談先が分からない」が50.6%で最も多く、次に「時間がない」が32.0%でした。



<その他の主な回答>

MA=981

- ・高齢のため(13件)
- ・情報がない(4件) など

② 市民(団体)と市が協働して行う取り組みとして、今後どのような場所でどのようなことができると思うか、あるいは望ましいか(自由記述)

- ・リサイクルステーションの常設(36件)
- ・イベントなど参加の場の充実(29件)
- ・情報発信の充実(28件)
- ・自治会など地域団体による取組の推進(21)
- ・環境教育の推進(18件)
- ・説明会・勉強会・意見交換会の開催(19件)
- ・事業者による取組の推進(4件)
- ・掲示板の活用(3件)
- ・その他(29件)

(10)【自由記述】本市のごみに関して、ご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。

- ・プラスチックの分別について（50件）
 - ・分別に賛成（30件）
 - ・分別に反対（30件）
- ・ごみの出し方について（50件）
- ・収集頻度・収集時間について（39件）
- ・指定ごみ袋について（31件）
- ・事業・施策・助成制度などのアイデア・要望について（24件）
- ・情報発信について（22件）
- ・ごみ収集運搬・処理従事者への感謝（29件）
- ・ガラスによる被害について（20件）
- ・パイプラインについて（15件）
- ・環境教育・啓発活動について（11件）
- ・神戸市との広域連携について（10件）
- ・大型ごみについて（7件）
- ・事業者への働きかけについて（5件）

以上